Catalog 2020-#2

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律５００円。
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ４/３０までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（新型コロナウイルス感染拡大下の通販カタログ）
*外国からの郵便物や小包の遅れが始まったのは三月上旬に発注した商品からでした。一週間から 10 日ほどで届いていた商品が三週間ほどかかるようになりました。そして三月中旬に発注した商品は米国を除いて、全く届かなくなりました。RICHARD THOMPSON の未発表音源の新譜"Live At Rock City Nottingham - November 1986"の貨物を追跡すると 3 月 22 日から空港で止まったまま。そしてようやく 4 月 8 日に英国出発を確認。今回"NEW ARRIVAL"で販売可能となりました。
*4 月 2 日の時点で日本の郵便局は 153 カ国の国際郵便引受け停止をしているそうです。おそらく欧米から日本に郵便物が送れなくなる日も近日中に到来かと思われます。加えて、スタッフが自宅待機をする業者が出てきました。これらの事情により、売切れ商品の即補充も出来なくなるかと思われます。
*当初、三月下旬新カタログ発行を予定していましたが、入荷の遅延のためにずるずると延びてしまいました。その遅延で、今回販売予定ではなかった ELIZA GILKYSON の新譜と DAVID BROMBERG BAND の新譜（公式リリースは 4 月 15 日）と JOHN DOYLE の新譜（公式リリースは 5 月 1 日）の重要作三枚もレコード会社のリリース前出荷の配慮で今回販売出来ることになりました。4 月 16 日～18 日入荷の予定です。
*前述の RICHARD THOMPSON の新譜もそうですが、今回初めて英国の SFM(Store For Music)社のＣＤを数枚販売しています。幸いにこのレーベルは仕入れ価格が手頃で、プライス･コードは"ａ"（大文字のＡではなく小文字のａ＝1690 円）ですので、Ａと勘違いされぬ

ようご注意下さい。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は6月10日まででＯＫです。

＊ＴＯＰ　３０　ＳＥＬＬＥＲＳ(2020－#1)＊



1)HEIDI TALBOT,SOPHIA STINNERBOM,ROGER TALLROTH,
MAGNUS STINNERBOM:A Light In The Dark(Ireland,Sweden)
2)AOIFE SCOTT:Homebird(Ireland)
3)NADIA BIRKENSTOCK:Whispering Woods(Germany)
4)JOHN DOYLE & MIKE McGOLDRICK
:John Doyle & Mike McGoldrick(Ireland)
5)BENJI KIRKPATRICK & THE EXCESS:Gold Has Worn Away
(England)
6)TERRY ALLEN & THE PANHANDLE MYSTERY BAND(USA)
:Just Like Moby Dick
7)WATER AND SAND:Catching Light(USA)
8)NUADAN:Den Diobhail(Ireland)
9)RUTH HAZLETON:Daisywheel(Australia)
10)DEBORAH ROSE:The Shining Pathway(Wales)
11)UNDAN:Vidury Mareliu(Lithuania)
12)MEROPE:Naktes(Lithuania)
13)ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD
:Live At Rockpalast 1977(USA)
14)JACKSON BROWNE & DAVID LINDLEY
:Palm Meadows Benefit 1978(USA)
15)DELANEY & BONNIE:Southern Comfort(USA)
16)CHRISTY MOORE:Magic Nights(Ireland)
17)YE VAGABOND:Hare's Lament(Ireland)
18)LOREENA McKENNITT:Live At The Royal Albert Hall(Canada)
19)FIDIL:Decade(Ireland)
20)ELIZABETH ROGERS & EUGENE FRIESEN:Down In Yon Forest
USA)
21)HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards(USA)
22)NILS LOFGREN:Blue With You(UK)
23)THE BYRDS:Some Standing Alone(USA)
24)PARIS TEXAS:When You're Gone(Belgium)
25)ITASCA:Spring(USA)
26)SEN SVAJA:Kraitis Is Pelkės(Lithuania)
27)DAVE SPECTER:Blues...From The Inside Out(USA)
28)MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation(USA)
29)KELPIE:Danse Mi Vise(Norway)
30)RY COODER & DAVID LINDLEY:Vienna 1995(USA)
※3番目のNADIA BIRKENSTOCK:Whispering Woodsは生山早弥香

アイリッシュハープ教室の生徒さんからの注文が多数あったた
めに上位にランクアップしました。

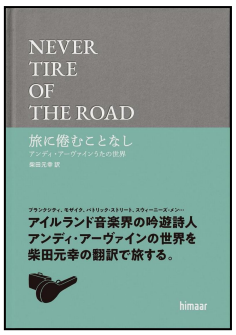
Book, Guitar, Re-issue, USA, Canada, British Folk, England,

Scotland, Ireland, USA(Trad), Europe 他, あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

［ＢＯＯＫ］

（国内版）



（Andy Irvine 本）

*NEVER TIRE OF THE ROAD／旅に倦むことなし
～アンディ・アーヴァインうたの世界　¥1600
（Andy Irvine の歌詞集が翻訳家で文芸誌「MONKEY」編集長の柴田元幸氏の対訳で出版された。収録歌詞は Andy がコンサートで好んでうたうレパートリーの中から 21 曲。書名に選ばれた曲を含め、すぐにメロディーが思い浮かぶ曲がいくつも。歌詞数こそ少ないが、Andy 自身の歌詞の解説と機転の利く注釈そして柴田氏の名訳は Andy の唄の世界をより理解する上で、また実際に彼の音楽を聴く上で、大きな助けとなる。また歌詞を考察した上で訳された歌詞は、表現が豊かで、そのまま詩集としても秀逸。歌詞集に Andy からの「日本のみんさんへ」の挨拶、ディスコグラフィー、バイオグラフィー、Andy の親友で画家の Eamonn O'Doherty による挿画 6 点など全 120 ページ。音楽用語などの日本語表記にアイルランド音楽ファンの間で交わされる表記とは異なる表記が二、三あるが、翻訳者が異分野の方なので致し方ないし、本翻訳歌詞集の価値からすれば、些細なこと。もし日本で Andy Irvine のコンサートがあれば、必携ですね。コンサートの盛り上がりは必至。ハードカバー。2020 年ヒマール刊）

（海外版）

*BRINGING IT ALL BACK HOME　¥4500
（在庫一冊。Nuala O'Connor 著。P176。1991 年刊。BBC）
*THE LIFE AND MUSIC OF STAN ROGERS　¥2980
（在庫一冊。Chris Gudgeon 著。ハードカバーの表紙に十カ所ほど尖ったもので突いたような痕跡が見られます。P217。1993 年刊。Penguin Books Canada）
*DAZZLING STRANGER "Bert Jansch And The British Folk

And Blues Revival″ ¥2980
(by Colin Harper。P376。2000刊。Helter Skeler)

（楽譜,ソングブック等）

*ATHOLE COLLECTION OF THE DANCE MUSIC OF SCOTLAND ¥3300
(1884年に刊行されたスコットランドのダンス曲870曲収録の楽譜集。いわば、アイルランドのの伝統音楽楽譜集「オニールの本」のスコットランド版。2008年刊。Highland Music Trust)

*THE COLLECTED COMPOSITION OF ED REAVY ¥2980
(在庫一冊。Compiled byJoseph M.Reavy。多くのアイリッシュ演奏家に愛されている伝説的フィドル奏者Ed Reavy{1898-1988}作曲の楽譜集。全127曲。曲目解説付。。P152。Green Grass Music)

*MUSIC OF TURLOUGH O'CAROLAN SERIES TWO ¥1000
(Taught by Duck Baker。″Planxty Irwin″,″Newlett″,″Plaxty Sweeney″,″Planxty Kelley″,″The Fairy Queen″のギターコード付楽譜。Duck Baker)

*IRISH SESSION TUNES(The Blue Book) B
(Selected by Brid Cranitch。アイリッシュ・フィドル向け100曲収録楽譜集。Ossian)

*110 IRELAND'S BEST SLOW AIRS A
(110曲収録楽譜集。Waltons)

*TRADITIONAL SLOW AIRS OF IRELAND ¥2980
(by Tomas O Canainn。100曲以上収録の楽譜集。P101。1991年/2001刊。Ossian)

↑楽譜に即した別売模範演奏２枚組CD{価格D}も在庫あります。「CD」と明記下さい。

（ＣＤ{又はカセット}付楽譜/教則本/本）

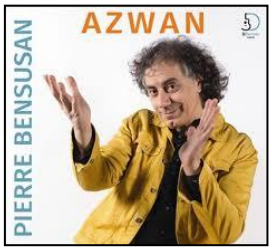
*CHARIE LENNON:Irish Tunes For Fiddle ¥2980
(″Musical Memories Vol 2″。Charlie Lennonの72曲収録のCD付き楽譜。曲目解説、ディスコグラフィー他付。P106。2012年刊。Waltons)

*110 IRISH SESSION TUNES VOL.3 D
(楽譜に即した演奏のCD付110曲収録ギターコード付楽譜。Waltons)

*110 IRELAND'S BEST SESSION TUNES VOL.2 ¥2980
(楽譜に即した演奏の2枚組CD付110曲収録ギターコード付楽譜。Waltons)

*110 IRISH FIDDLE TUNES VOL.2 D
(楽譜に即した演奏の2枚組CD付110曲収録ギターコード付楽譜。Waltons)

[CD/ＧＵＩＴＡＲ]



(Pierre Bensusan)

*PIERRE BENSUSAN:Azwan B
(4/17 頃入荷予定。待望の新譜。七年振り？2020 作。DADGAD)
*PETER RATZENBECK:Outremer C
(ゲスト:Andy Irvine。1995 年作。Shamrock)
*PETER RATZENBECK:Gitarero C
(ゲスト:Hans Theessink。1990 作。Shamrock)
*SOIG SIBERIL:30 Ans De Scene B
(Kornog,Gwerz のメムバーでケルティック･ギタリストの Soig Siberil の 2 枚組編集 CD。1993 年から 2012 年までのソロやデュエットやグループの演奏が全 29 曲。2013 作。Coop Breizh)

[リイシュー/Historic Recording]
(CD/U. S. A.)



(Pete Seeger&Roger McGuinn)(J.Mitchell&J.Taylor)
*PETE SEEGER & ROGER McGUINN
:The Bottom Line Archive Series a
(1994 年 5 月 18 日、ニューヨークの Bottom Line での二枚組アコースティック･ライヴ。Vin Scelsa の司会進行で、バンジョーの弾き語りでうたう Pete Seeger の唄が８曲とギターの弾き語りでうたう Roger McGuinn の唄が 12 曲、そしてラストに収録された二人による２曲の全 22 曲。Pete Seeger の唄は泰然として味わい深いが、個人的には何よりギターの弾き語りで、フォーク･シンガー然とした Roger McGuinn の唄に大きな魅力を感じる。その味わいは Roger McGuinn のヴォーカルをフィーチャーした The Byrds のフォーク･ロックをアコースティックに置換えて、磨きをかけたような凛とした音楽。米国で初めてフォークをロック化した、いわばかぶき者 R.McGuinn のヴォーカルとギターの魅力が自然体で表出している。Pete Seger 作で、The Byrds の 1965 年のデビュー作 "Mr.Tambourine Man"収録の"The Bells of Rhymney"で幕という曲順も憎い憎い。1994 年/2020 作。SFM)
↑カタログ発行後、本 CD は BFD より 2015 年にリリースされた “The Bottom Line Archive” と同じ内容であることがわかりました。
*PETE SEEGER:Rainbow Race A
("Hobo's Lullaby"他全 10 曲。1971 年/2014 作。Talking Elephant)
*JONI MITCHELL & JAMES TAYLOR:Paris Theatre 1970 C
(J.Mitchell と J.Taylor が 1970 年 10 月 29 日にロンドンの Paris Theatre で行ったライヴの BBC{FM}ラジオ放送音源からからの全 17 曲。何ですか、このライヴの瑞々しさは！二人の唄{デュエットもある}も二人が奏でるギターもダルシマーもピアノも、そしてサウンドも嘘のようにフレッシュ。デビューしたばかりの二人のシンガーとして真っ直ぐさと共に二人の素朴な唄の魅力がフレッシュ･パックされたような、何もかもが瑞々しくフレッシュ。当時、これほど瑞々しく優しい唄を聴いた人達は、新鮮なシ

ョックを受けたのではないだろうか。一曲終わるごとの観客の喝采が熱い。1970 年/2019 作。All Access)

*RY COODER & DAVID LINDLEY:Vienna 1995 C

(R.Cooder & D.Lindley が Ry が息子の Joaquin{ﾄﾞﾗﾑｽ､ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}を David が娘の Roseanne{ヴォーカル､ギター}を連れて､両家族で 1995 年に行ったヨーロッパ･ツアー時にオーストリアで行ったライヴの FM ラジオ放送ライヴ音源からの二枚組。全 22 曲。二人が組めば落ち着く先は Ry の一枚目から五枚目の"Chicken Skin Music"までのブルース､カントリー､フォークそしてメキシカンだな､と名演奏家の二人が楽器演奏のコラボを楽しむように奏で出す緩い土の香りのする音楽とその二人と Roseanne のヴォーカルを味わいながら､思う。ディスク２では Roseanne のヴォーカルの出番が多く､彼女のブルージーなヴォーカルが南部色を濃くしている。これは予期せぬプレゼント。Ry の渋いスライド･ギターもたっぷり。1995 年/2019 作。Leftfield Media)

*POCO:Live,Wollman Skating Rink - New York 22nd August 1975 C

(Poco の 1975 年の FM ラジオ放送ライヴ音源からの 16 曲。メムバーは Paul Cotton,Rusty Young,Timothy Schmit,George Grantham。曲目は 1971 年の"From The Inside"から 1975 年の"Head Over Heels"までの五枚のカントリー･ロックの歴史的名盤収録曲を中心にした選曲で､期待以上というか､やはりライヴは違うというか､無駄な化粧を削ぎ落とした Poco 流カントリー･ロックの心髄的な音楽を繰り広げていて､ぼくを含めてファンは極楽気分必至。音量がやや低めなので､ボリュームを上げて聴きましょう!1975 年/2019 作。Roxbox)

*JOHN PRINE:The BBC Sessions ～The Lost Broadcasts 1971-1973 A

(1971 年 BBC2 のテレビ番組のライヴ音源から６曲と 1973 年 BBC の FM ラジオのライヴ音源から８曲の全 14 曲。大半の曲が John Prine の 1971 年のデビュー･アルバムからのナムバーで､ギターの弾き語りでうたわれる曲の数々は､素朴でデビュー当初の彼の唄本来のスッピン魅力が楽しめる。1971 年/1973 年/2019 作。Sutra)

※4 月 7 日､ジョン･プラインが新型コロナウイルスによる合併症のため亡くなりました。御冥福をお祈りします。

*GENE CLARK & FRIENDS:Live At The Three T's B

(1985 年５月にインディアナのクラブでの Gene Clark と仲間達の FM ラジオ収録ライヴ。確認できる仲間達は元バーズの Michael Clark と John York に元ビーチボーイズの Blondie Chaplin に元フライング･ブリトー･ブラザーズの Rick Roberts。気骨ある Gene Clark の弾き語りとザ･バンド風ロックとカントリーっぽくない時代のバーズ風ロックが混在した弾き語りを含めてエネルギッシュなライヴ。1985 年/2019 作。Leftfield Media)

*ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD :Live At Rockpalast 1977 C

(1977 年 7 月 Roger McGuinn がドイツで行ったテレビ番組主催のコンサートを収録した DVD＋CD セット。バンド･メムバーは元 Fleetwood Mac の Rick Vito{ｷﾞﾀｰ､ヴォーカル}､元 Poco の Charlie Harrison{ﾍﾞｰｽ､ヴォーカル}そして名セッション･ドラマーの Greg Thomas。R.McGuinn と C.Harrison の二台のエレキ･ギターがギタの

競演をし、かつR.Mcguinnはギターで魅惑のByrdsサウンドを奏でつ汗だくになって熱唱する。メチャ凄い。1977年/2019作。MIG)

*STEVE GOODMAN:Artistic Hair A
(1983年作"Artistic Hair"に1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ音源曲10曲を加えた全22曲。1983年/2019作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Affordable Art A
(1984年作"Affordable Art"に"Street Of London"を含む1983年の未発表ソロ・ライヴ音源曲7曲と1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲1曲を加えた全20曲。1984年/2019作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Unfinished Business A
(1987年作"Unfinished Business"にソロを中心にした未発表ライヴ音源曲9曲{内一曲は"Don't Get Sand In It"のデモ曲}と1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲1曲を加えた全19曲。1987年/2019作。Ominivore)

*BOB MARTIN:Midwest Farm Disaster C
(1970年代SSWアルバムの名盤中の名盤。1972年/2007作。Riversong。検品してお送りします)

(CD/ＢＲＩＴＡＩＮ＆ＩＲＥＬＡＮＤ他)

*BERT JANSCH:Avocet (Expanded Anniversary Edition) D
(1977年のイタリアでの未発表ライヴ音源からの3曲を加えた40周年記念盤。1977年/1979年/2020作。Earth)

*BERT JANSCH:A Man I'd Rather Be (Part 2) ¥4980
(ハードカバーブック型四枚組ボックスセット。ディスク1は1967年の"Nicola"",ディスク2は1969年の"Birthday Blues",ディスク3は1971年の"Rosemary Lane",ディスク4は1973年の"Moonshine"。ブックレットは英MOJO Magazine誌のライターDave Hendersonによる新たな解説や未使用ジャケット候補など未公開写真など。保存版。2018作。Earth)

*TOM YATES:Love Comes Well Armed A
(本作は1973年にPresidentというレーベルから発売されたTom Yates{1944-1993}の二枚目。B.J.ColeやDuncan Browneがバックを務めていて、一種独特な浮遊感のある世界はJohn Martynの世界にも通じる1970年代英国SSWの独特な感性。1973/2013作。Epona)

*TOM YATES:Love Is Losing Ground C
(1983年～1988年の間のカセットテープ収録音源からの編集CD。全12曲。2012作。Epona)

*MAGENTA:Recollections D
(1981年作。二枚組CD。1981年/2004作。Hugo-Montes)

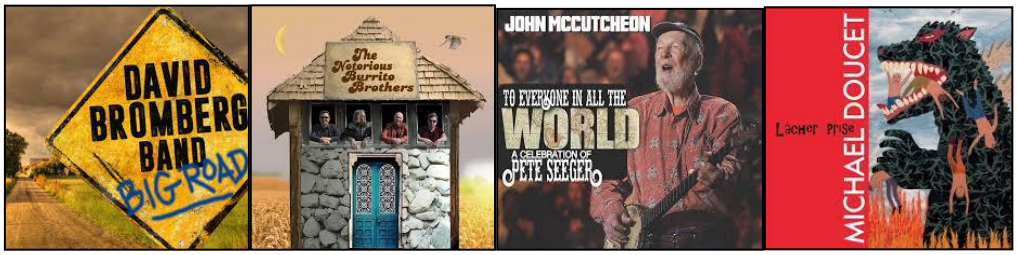
*STRAWBS:Preserves Uncanned D
(1991年作。二枚組CD。Road Goes On Forever)

*IAIN MATTHEWS:Intimate Wash D
("The Notebook Series No.3"。1993作。Perfect Pitch)

*PLAINSONG:On Air C
(副題"The Original & Unreleased BBC Session Recordings"。1972年のBBCライヴ。1992作。Band Of Joy)

*RALPH McTELL:A Collection Of His Love Songs C
(全23曲。1989作。Castle)

[CD/ＵＳＡ{Folk､Rock}系]



(David Bromberg)　(Burrito Brothers)　(John Mccutcheon)　(Michael Doucet)

*DAVID BROMBERG BAND:Big Road　A

(4 月 15 日入荷済み。ネットでオーディオ･サンプルを聴いて ぶっ飛んでしまった。オールアメリカンな音楽を自由自在に創作し、今が旬のアブラののったヴォーカルでうたう D.Bromberg のヴォーカルも全くあの妖気が薄れてはいない。これは長年の彼の活動を通して身にしみ込んだ黒人白人の垣根無しに混在した米国音楽が余裕綽々と濃厚に体現されていて、オールアメリカンなアメリカン･ミュージックとしての味わいの度合いも感動の度合いも、もの凄い。ネットで公開されているバンド･メムバーは、Larry Campbell{ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰでもある},Dan Walkeron,Birch Johnson, Jon-Erik Kellso,Matt Koza Stewart のバンド･メムバーに Mark Cosgrove,Nate Grower,Josh Kanusky,Suavek Zaniesienko。本作を制作する過程を記録したドキュメンタリー･フィルムを収録した DVD 付。公式リリースは 4 月 15 日。2020 作。Red House)

*THE BURRITO BROTHERS:The Notorious Burrito Brothers　a

(Chris P James{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｷｰﾎﾞｰﾄﾞほか},Tony Paoletta{ｽﾃｨｰﾙ･ｷﾞﾀｰ､ﾄﾞﾌﾞﾛ､ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ},Bob Hatter{ｱｺｰｽﾃｨｯｸ&ｴﾚｷｷﾞﾀｰ､ﾍﾞｰｽ},Peter Young{ﾄﾞﾗﾑｽ､ｳﾞｫｰｶﾙ}という馴染みのないラインナップになってしまった Burrito Brothers の新作。Burrito Brothers というより、初期 Eagles や初期 Poco のようなカントリー色の薄いソリッドな西海岸ロック風で、滅茶苦茶好み。Chris P James のヴォーカルはまさにそれ風だし、70 年代西海岸ロック･ファンの好みを知り尽くして制作したような美味しすぎるロック。Gib Guilbeau{元 Flying Burrito Brother}の息子で、Poco 収録の"Call It Love"の作者の Ronnie Guilbeau が一曲{Do Right Man}リード･ヴォーカルでゲスト参加。このナムバーがまたまたカッコイイ。皆さん、昔のカッコイイ音を創って、ホント楽しんでますね。Dan Penn & Chip Moman の名曲"Dark End Of The Street"ほか全 9 曲。2020 作。SFM)

*JOHN MCCUTCHEON:To Everyone In All The World　B

(副題"A Celebration Of Pete Seeger"。アイルランドの音楽雑誌"Journal Of Music"の 2019 年フォーク部門のベストアルバムに選出されていなければ気に留めてもいなかったヴェテラン･フォーク･シンガーの John Mccutcheon の通算 40 枚目。その昔、ぼくなどは彼のハンマーダルシマー･アルバムをこよなく愛聴した。本作は Pete Seeger 作のナムバーと P.Seeger のレパートリー全 15 曲を John が仲間達と演唱したもので、｢作るのに 50 年以上待った｣という。この意味はおそらく｢50 年以上音楽活動をしてようやく Pete Seeger の唄をうたえるくらいになれた｣というような意味だろう。この目出度い企画に参加した仲間達は、固定メム

バーの Pete Kennedy,JT Brown,Robert "Jos" Josepe に加えて、Hot Rize,Beausoleil,Steels Wheels,Finest Find などのメムバーや Stuart Duncan,Corey Harris,Suzy Boguss,Katia Cardenal,John Jenning 等々。久々に聴く John の唄は穏やかで丸っこくて、今が旬！と感じられる生き生き感ある。一曲一曲が John 流の Pete Seeger ソング集として結実している。一曲ハンマーダルシマーをフィーチャーした曲が収められている。その曲"Living In The Country"は Pete Seeger が 12 弦ギター用に作曲したインスト曲で、滅茶苦茶清々しい。全曲聴き終わって心あったか。2019 作。Appalseed)

*MICHAEL DOUCET:Lâcher Prise A

(ほとんど忘れかけていた BeauSoleil の Michael Doucet の新作。ソロ名義だが、実質的に孫くらいの女性シンガーの Sarah Quintana{ヴォーカル、ギター}に Chad Viator{ギター},Chris French{ベース},Jim Kolacek{ドラムス}をバンド・メムバーに迎えたフランス系のケイジャン、ザディコ等のルイジアナ・スタイルのルーツロック。これがまた起死回生というか、ケイジャンやザディコをベースに滅茶苦茶ノリの良いルーツロックで驚かせる。ヴォーカル・ハーモニーを含めたバンドの一体感は 1970 年代のカントリー・ロック・バンドのようで、同じ米国南部系だが、南部ロックとも、またカントリー・ロックとも味わいの異なるルイジアナ伝統の南部系ルーツロックを若々しくエネルギッシュに生み出している。ブックレットを開けば、かなり年下のバンド仲間と笑顔の Michael Doucet 爺さん。ちなみにジャケットの絵のタイトルは「ゴジラ対人」。2020 作。Compass)

*TERRY ALLEN & THE PANHANDLE MYSTERY BAND
:Just Like Moby Dick B

(Terry Allen の新作！長編小説「『白鯨』(Moby Dick)のように」と題された本作は、冒険心旺盛で様々な悲喜劇が T.Allen のアクのあるヴォーカルで朗々とうたわれる。やや円やかになった印象はあるものの、Terry のヴォーカルの野趣な覇気は変わっていない。Charlie Sexton,Jo Harvey Allen,Bukka Allen,Richard Bowden,Lloyd Maines 等のバックアップはいぶし銀のテックスメックス～テキサス・フォークとして味わいが深い。女性 SSW の Shannon McNally とのデュエットも聞き物。本作発売時、T.Allen は 76 歳。2020 作。Paradise Of Bachelors)

*WATER AND SAND:Catching Light A

(Water And Sand はヴェテラン SSW の Todd Thibaud と同じくヴェテラン SSW の Kim Taylor の男女のヴォーカル・デュオ。本作は二枚目だが、聴くのは初めて。男女の心ある良きシンガーが手を組めば、こんなに魅力的なアルバムが作れるという見本のようなアルバム。二人は二人で創作した人生の悲喜交々の唄を実に丁寧にうたっていて、Todd の物語るような朗々としたヴォーカルと Kim の内にシンガー魂を感じさせる表現力豊かなヴォーカルの、それぞれの色合いの特長を活かしたヴォーカル・デュエットの妙は、ゾクゾクっとさせられると同時にそれぞれの唄の魅力が引き立って聞こえてくる。おまけにアコースティックからルーツロックの幅のサウンドが滅茶苦茶いかしてる。2019 作。Blue Rose)

*RICH HOPKINS AND LUMINARIOS:Back To The Garden B

(何ですか!?1992 年からアリゾナのタクソンを拠点に活動してい

るというRick Hopkinsと彼のバンドの本作の凄さ。Neil Young & Crazy Horseに心底影響を受けたというRickのロックは、半端じゃない。Crazy Horseの荒削りさを温存した重量感あるルーツロックと70年代西海岸風ロックは、70年代アメリカン・ロックのスピリットを受け継ぎ、果敢に体現していて凄い魅力。Rickと Rickの奥さんのLisa Novakのヴォーカルも、そしてとりわけエレキギターがぶっとく輝いている。2019作。Blue Rose)

*PARIS TEXAS:When You're Gone B

(Paris Texasを名乗るベルギーのアントワープの五太郎バンドによる本作は、米国音楽の酸いも甘いも知ったような味わいのあるご機嫌な米国フォーク・アルバム。SSWのGerrit Hüppertz{ヴォーカル、ギター}とDave Crokaerts{ヴォーカル、ギター}を中心に結成されたParis Texasの音楽は、70年代、米国のフォーク・クラブで気の合うフォーク・シンガーとミュージシャンが集まって結成したようなあの時代のSSWの雰囲気と自由な空気感があって、滅茶苦茶和んでしまう音楽。タイムスリップして、シカゴかどこかのフォーク・クラブに迷い込んだような気分。愛すべき音楽。残りのメムバーはDirk Peerear{ヴォーカル、ドブロ},Jan Michielsen{ヴォーカル、マンドリン},2019作。TRAD)
Maarten Michielsen{ヴォーカル、タブルベース}

*DAVE SPECTER:Blues...From The Inside Out B

(Featuring Jorma Kaukonen{ギター} & Brother John Kattke{ヴォーカル、ピアノ、オルガン}の35年のキャリアを誇るブルース・ギタリストのDave Specterのシンガー＆ギタリストとしてのデビュー作。ソリッドなブルース・ギターにドラムス、ベースにホーンが加わったブルース～南部ロックは60年代後半から70年代のブルース系音楽のコアの味わいとパワーを保持し、しかもDave Specterのヴォーカルは70年代の南部系SSWのようなヌーボーとした味わいを発散していて、何とも味わい深く魅力的。ゲスト・シンガーだが、シカゴを拠点に活動する女性SSWのSarah Marie Youngのソウルフルな南部ロックは、だめ押し的に圧巻。2019作。Delmark)

*JACK TEMPCHIN:One More Time With Feeling D

(穏やかに昔のことを懐かしむ"One Of Good Old Days"で幕開けするJack Tempchinの新作は続くJack Tempchin作でEaglesのヒット曲"Peaceful Easy Feeling"から若かりし頃にタイムスリップしたかのような年季が入ってやや懐古趣味ながら、輝き感のあるカントリーロックを自然体で体現していて、最高な気分になる。これはもう70年代の西海岸ロック＆ＳＳＷファンへの最高の贈り物。プロデュースはUncle Jim's MusicのGary Nicholson。音楽シーンで同じ時代を過ごし、気心の知れた音友の手腕が大きく功を奏した感がある。2019作。Mailboat)

*AD VANDERVEEN:Final Refuge A

(オランダのヴェテランSSWのAdの新作は、ギター、ピアノ、バンジョー、スティールギター、ハーモニカ等によるサウンドは木漏れ日感があって、齢を重ねて到達したかのような落ち葉ふかふかの穏やかな唄たちだ。その穏やかな唄たちは、フレッシュなアコースティック・サウンドの輝きの中で、実に味わい深く、どちらかと言うと渋いタイプの唄なのに、夢見心地な趣がある。出来過ぎなくらい凄く良く出来たSSWアルバムだ。時折聴くことの出来るAdと Kersten De Ligny のハーモニーが夢見心地さを増す。2019作。

Continental)

*JEREMY NAIL:Ghost Of Love A

(テキサスのオールバニーという町出身のSSWのでギタリストのJeremy Nailの新作で二作目。テキサス出身ということは忘れた方が良い。Jeremyの唄は白日夢的で一種独特だ。それは"Windmill"や"Paradise"や"Angels Will Fall"等の収録された曲名からもおおよそ感じ取れるが、どこか夢の中にいるような現実感のないぼんやりした唄とカラフルなギターをフィーチャーした独特な"Peaceful Feeling"なルーツロック。すべてが緩やかに流れてゆく。2019作。Coast To Coast)

*DAVID MASSENGILL:Coming Up For Air A

(David Massengillを知ったのはJack Hardyが編集したFast Folk Musical Magazineというマガジン付LP。D.Massengillは Jack Hardyが亡くなるまでFolk Brothersという二人組で活動したが、本作は彼の1992年のデビュー･アルバム。Steve Goodmanタイプの SSWだが、ニューヨークではもう既に中堅のSSW的存在で、機知に富んだ唄は溌剌として新鮮。w.Steve Addabbo{プロデューサーでもある},Larry Cambell,Chris Bishop,Denny McDermott,etc。1992作。Flying Fish。本CDは昔米国盤CDで一時期流行った縦長のプラスティック製パッケージ仕様ですので、解体し、通常CD仕様にてお送りします)

*MARK ERELLI:Hillbilly Pigrim A

(SSWのM.Erelliの2005作。本作はエヴァリーブラザーズのようなスウィートなカントリーからスウィンギーなカントリーまで古き良き米国音楽の世界へタイムスリップ。Markのカントリー風音楽は懐古趣味を超えて、米国音楽として不思議と新鮮。ゲスト:Erin McKeown。2005作。Signature。検品してお送りします)

*JACK WILLIAMS:Laughing In The Face Of The Blues A

(自身のアタックの強いブルース･ギターの伴奏で唄うブルース調のJackの唄は枯れた味わいながら、ブルースの泥臭い曲調とギターのパワーを伴って強いインパクトがある。ヴェテランの味わいと風格。w.Freebo,Danny Harlow,Cary Taylor。2005作。Wind River。検品してお送りします)

*BRENT MOYER:Truth Trust Dreams And Heart B

(お宝発掘。ナッシュビルのSSWのBrent Moyerの1998年のアルバム、昔よく聴きました。Steve Goodmanを少し軽めにしてリラックスした雰囲気の心地よいフォーク、カントリー、ブルース、テックスメックス等が混ざり合ったルーツロック･スタイルのSSWアルバム。Brentの唄と共にBrook Langtonのスティール＆ラップ･スティールほかによる土臭いサウンドの旨みは今も褪せず。1998作。Brambus。検品してお送りします)

*THE NORMAN FISHINTACKLE CHOIR
:One Kind Of Bait In The Bucket a

(72年作"Out The Window"と73年作"Shimmy She Roll,Shimmy She Shake"のJim Pulteのバンドの2007年作。Windstorm)

*JOEL ZOSS:Florida Blues A

(ラップ包装無し。2015作。Blizpik)

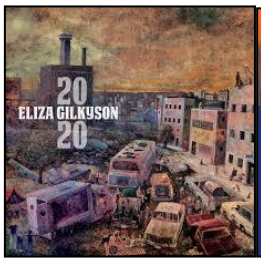
*ALAN GERBER:Fools That Try ¥1290

(1997作。Mugwamp。検品をして送ります)

*ALAN GERBER:The Boogie Man ¥1290

(1999 作。Mugwamp。検品をして送ります)
*ALAN GERBER:Chicken Walk A
(2004 作。Mugwamp。検品をして送ります)
*ERIC TAYLOR:The Kerrville Tapes ¥1090
(2003 作。Silverwolf。検品をして送ります)
*MUDDY WATERS:The Muddy Waters Woodstock Album A
(1975 年/1995 作。検品をして送ります)

[CD/ＵＳＡ{female}他]



(Eliza Gilkyson)



(Mastersons)

*ELIZA GILKYSON:2020 A
(4 月 15 日入荷済み。発売前にサンプル盤到着。やっぱりジャケットやブックレットを見ながら CD で聴かなきゃダメだね。Eliza の本作は SSW/フォーク･シンガーとしてのルーツ回帰の志が静かに穏やかに表出した静かな感動作。自作曲に加えて、Woody Guthrie の"Beach Haven"や Bob Dylan の「はげしい雨が降る」や Pete Seeger の「花はどこへ行った」などの曲を加えた本作は、平和の願いや反戦の意志を唄で表明した唄で占められていて、どの唄にもそれぞれにそのような心が込められている。ご存じのように「花はどこへ行った」は 1960 年代に日本でもヒットした反戦歌だが、気持ちを穏やかに保って、ギターの弾き語りっぽくうたう Eliza の唄の何と心に沁みること！そして何という美しさ！そしてまた歌詞を読みながら聴くと、戦争の虚しさがひしひしと伝わってくる。それとは対象的に「はげしい雨が降る」はヴォーカルもサウンドも重々しく、その晴れない鬱々とした唄が心に刺さる。どの唄もややディラン調を帯びたイライザ節。唄の力を信じる力が創り上げた傑作。良い唄は受け継がれ、心あるシンガーによって、新たな命を得て、時を超えて甦る。2020 作。Red House)
*MASTERSONS:No Time For Love Songs A
(Eleanor Whitmore{ヴォーカル、ヴァイオリン他}と The Dukes のメムバーの Chris Masterson{ヴォーカル、各種ギター他}の夫婦デュオ"Mastersons"結成 10 周年記念の四枚目。Mastersons のルーツロックは魅力いっぱい。前作"Transient Lullaby"を聴いたときは気がつかなかったが、この二人は Gram Parsons & Emmylou Harris 的な雰囲気とそうしたものを Eleanor のヴォーカルをメインに据えてピュアに 醸成したようなヴォーカル･ミュージックを滅茶苦茶かっこいいルーツロック･サウンドを伴って、創り上げている。そのピュアさが 70 年代の Gay & Terry Woods のようなアイリッシュ＆ブリティッシュ･フォークのような愁い感のある音楽をも生んでいて、底知れなく魅力的。これほどつぼを得て、彩り感のあるルーツロック･サウンドを創り上げた 70 年代のプログレッシヴ･カントリーと南部ロックを熟知したプロデューサーの Shooter

Jennings の手腕もお見事。聴き惚れてばかり。2020 作。Red House)

*ITASCA:Spring B

(Itasca こと女性 SSW の Kayla Cohen の二枚目。不思議な魅力の女性 SSW アルバムだ。米国西部のフォー・コーナーズという地域の風景と歴史にインスパイヤーされて制作したという本作だが、自身が爪弾くのフィンガー・ピッキング・ギターの鮮やかな音色と夢でも見てるかのようなアンニュイなヴォーカルは心地よく彼女独特な唄の世界に誘われていく。音楽はアコースティックで春の明るさが感じられるが、唄と音楽全体から醸し出される夢か幻かの不思議感は、ある種対象的な Nick Drake の不思議感にどこか通じる。静かな衝撃作。2019 作。Paradise Of Bachelors)

*MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation A

(Meena Cryle なる凄い女性シンガーをヴォーカルに据えたオーストラリアの南部ロック・バンドの Meena Cryle & The Chris Fillmore Band のドデカい南部ロック・アルバム。南部フィーリング豊かな Meena のヴォーカルが圧巻な上に、Meena の夫でギター達人 Chris Fillmore 率いるバンドの南部ロックは抜群。現在、南部ロック系の女性シンガーで、Meena 以上の実力派女性シンガーは思いつかない。2019 作。 Continental)

*HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards A

(Neil Young や Martha Wainwright の影響を受けたという女性 SSW の Hannah の新作で二枚目。パンチ力あるルーツロック・サウンドでノリノリのヴォーカルで幕開けし、一発でノックアウトさせられる本作だが、Emmylou Harris に似た魅力的な声とストーリーをじっくりとうたう力は並はずれて素晴らしく、ルーツロックな音作りも基本は Hannah のギターの弾き語りをベースにしたもので、ルーツロックの質が高い。そういう意味ではプロデューサーでギタリストの Thomas Collison の手腕は見事。ゲスト:Sid Griffin。2019 作。Continental)

*CAROLINE HERRING:Verses A

(テキサスはオースティンを拠点に活動するヴェテラン女性 SSW でフォーク・シンガーの Caroline Herring の新作で八枚目。古典的な聖歌やゴスペルの詩歌に影響を受けたという Caroline の唄は、個人目線の一般的な米国フォークとは趣を異にし、ひと言で言えば、柔和で瑞々しい包容力のあるフォーク。Caroline の唄には春の草花や春の日射しのようなフレッシュな輝きがあり、ギターやピアノなどの演奏も同様な輝きがある。唄は Allison Krauss の自宅スタジオで三日間で収録したそうだ。小鳥の囀りが音楽と共に聞こえてきそうな音楽の空気感。2019 作。Continental)

*DAVINA SOWERS AND THE VAGABONDS:Sugar Drops A

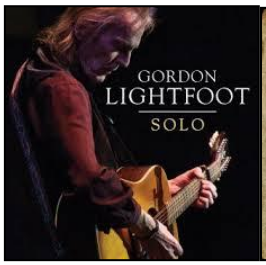
(ミネソタを拠点に 2006 年から活動する Davina & The Vagabonds の新作。古いブルースやジャズの世界を往年の黒人女性シンガーのムードとサウンドを体現するシンガーやグループの中でも、彼らは 1930～40 年代のディキシーランド・スタイルのホーン・セクションを伴ったニューオーリンズ音楽をベースに独自のレトロ音楽を魅力的に体現している上に、Davina のハスキーでブルージーなヴォーカルは、往年の黒人女性シンガーのムードばっちり。流石 13 年のキャリア。2019 作。Red House)

*SUSAN TRUMP:What The Hill People Say C

(1989 作。Susan Trump Music。検品してお送ります)

*MARIA MULDAUR:Meet Me At Midnite　　A
（1994 作。Black Top。検品してお送ります）
*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together　　a
（ヴェテラン SSW でギタリストの Fred James とスワンプ女王の Mary-Ann の共演盤。2011 作。SPV）
*HAZLEWOOD:Journey（ラップ包装なし。1990 作。Hazlewood）　　C
*WENDY BECKERMAN:Mango Moon　　A
（Jack Hardy 周辺のミュージシャンがバックを固めた女性 SSW の Wendy Beckerman の 1996 年作。唄の自由さと彩りのある素敵な女性 SSW アルバム。1996 年作。Brambus。製造年が古いので検品をしてお送りします）

[CD/ＣＡＮＡＤＡ]





（Gordon Lightfoot）　（Blackie And The Rodeo）

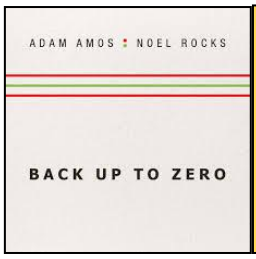
*GORDON LIGHTFOOT:Solo　　B
（長いこと聴いていなかった Gordon Lightfoot。本作は 2001 年～2002 年に録音していた二枚組 CD に収録した曲の中から 9 曲をギターの弾き語りでうたった新作。あるとき事務所の片付けをしたときにその二枚組を発見し、聴いてみたら、ギターの弾き語りのアルバムを作りたくなったという。その昔、木訥としたうたい回しながら、メロディアスで爽快感のある素朴な G.Lightfoot の唄に心奪われたが、本作は、おおこれぞ Gordon Lightfoot！と笑顔になってしまう少し丸くなった Gordon 節が緩く味わえるほんわかとした爽快作。ほぼ 20 年前のレパートリーを懐かしむようにうたっている。新曲一曲を加えて全 10 曲。2020 作。Warner Music Canada）
*BLACKIE & THE RODEO KINGS:King Of This Town　　B
（お馴染みの Colin Linden,Stephen Fearing,Tom Wilson のトリオの"Blackie & The Rodeo Kings"の新作。いつものことながら、彼らのロックは南部志向で揺るぎがなく、当て外れがない。それはおそらくプロデューサーの南部ロック命の Colin Linden のカリスマ性によるものだろうが、三人のツワモノ達のヴォーカルも、Gary Craig,John Dymond,Richard Bell 等の助っ人を加えて体現したロックも、徹頭徹尾熱い。録音はナッシュビル。皆さん、ナッシュビルに来て、余計に気合い入ったみたいですね。2020 作。Warner Music Canada）
*FRED EAGLESMITH:Lipstick Lies Gasoline　　B
（13 曲中 9 曲で Willie P.Bennett がバックグラウンド･ヴォーカルとマンドリンで共演した Fred Eaglesmith の 1997 年の名盤。Willie P.Bennett 系統の土臭いルーツロックは今聴いても圧巻。土埃舞うカントリー～南部志向ロックにまみれて、Fred は野趣な味わいの声を振り絞る。このような土臭くそして気骨あるＳＳＷアルバムは今はなくなった。Produced by Scott Merritt。ゲスト

:Richard Bell。巷では高値。1997 作。Razor & Tie。検品してお送りします)

*VALDY:Heart At Work B

(開封。Produced by Dan Donahue。1993 作。Peg Music)

[CD/UK, IRELAND]







(A.Amos&N.Rocks) (Matthews Southern Comfort) (Blackbird &Crow)

*ADAM AMOS & NOEL ROCKS:Back Up To Zero B

(1980 年代に Celtic Music から二枚のアルバムをリリースしていたエディンバラのフォーク･デュオの新作で通算三枚目。二十数年振りに発表した二人の新作は、二人が奏でるバンジョーとギターの伴奏で、齢を重ねた二人のふくよかな唄に心和む。この味わいは出せそうで、中々出せるものではない。バンジョーとギターの音色に乗って、ソロで、そしてハーモニーで緩くうたわれる唄は、牧歌的でどこかほのぼのと自分の人生を振り返るような心の安らぎ感がある。そうした唄がごく自然に気持ち良くうたわれているのが素晴らしい。Sutherland Brothers の Gavin Sutherland くらいシンガーとして良い歳の取り方をしてますね。たぶん Heron や Ronnie Lane のファンもぞっこんかも。w.David Paton{元 Pilot/ﾍﾞｰｽ},Kenny Hutchinson{ｱｺ､ﾋﾟｱﾉ},Su-a Lee {ﾁｪﾛ}。2020 作。Amos and Rocks)

*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine B

(エチオピアの飢餓をテーマにした Joni Mitchell の"Ethiopia" {1985 年の"Dog Eat Dog"収録}から幕開けする Matthews Southern Comfort の新作は、Iain Matthews のシンガーとしての執念のようなものが感じられる覇気あるヴォーカルとバンド･メムバー三名{B.J.Baartmans,Eric Devries,Bart de Win}との阿吽のコーラスと阿吽の重厚感あるロックにドキッとさせられる。この四人のツワモノ達の気力に充ちたエネルギーとバンドで丁寧に練り上げられた柔軟で逞しいロックの旨みと醍醐味は、もの凄い。風雲老人?I.Matthews 率いるバンドの、まだまだ老いぼれぬ熟練ロックに乾杯！そうそうラストの"In My Next Life"というナムバーのみ緩いロック調。来世ではこうありたい、という思いがうたわれている。音楽はポジティヴでも、本当は来世のことを考える歳なんだね。2020 作。MIG)

*BLACKBIRD & CROW:Ailm B

(Clannad の Moira Brennan が大ファンというドニゴールの Maighréad Ní Ghrásta{ヴｫｰｶﾙ}と Stephen John Doohan{各種ｷﾞﾀｰ､ﾌﾞｽﾞｰｷ､ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ､ｼﾝｾ他}の男女の二人組"Black & Crow の新譜で二枚目。ヴォーカルの Maighréad 嬢は若いが、唄の表現力が豊かで、音楽ジャンルの垣根をあっさりと越えて、まるで現代のケルトの吟遊詩人のごとく思いのままに自作の唄をうたう。それらの唄にはカリスマ性さえ宿るほど、孤高感がある。音楽性は一応、アイリ

ッシュ･フォーク､ルーツロック､ブルース､ソウル､サイケデリックなフォーク･ロック等のスタイルだが､音楽の根っこにはケルティックな美学と神秘性が宿っていて､音楽は､彼女の唄の世界の深さが生き写しされている｡多彩な音を奏でる相方の Stephen の伴奏の妙技も目を見張る｡凄い個性だ｡ゲール語の唄を含む全15曲｡2019作｡MIG)

*DEBORAH ROSE:The Shining Pathway B

(南ウエールズ出身の女性SSWの Deborah Roseの新作｡新鮮な響きのアコースティック･ギターを中心にピアノやヴァイオリンの伴奏を伴って聞こえてくる Deborahの唄は何かを祈るかのように穏やかで､時空を超えた深い味わいがある｡彼女のヴォーカルは美しく澄んだヴォーカルの時もあれば､霧がかかったようなスモーキーなヴォーカルの時もあるが､唄の清らかさと悠々さで一貫している｡各種楽器の伴奏は主に本作のプロデューサーの Ben Walshによるものだが､Deborahの唄に寄り添った控えめながら独創性に富むサウンドが､Deborahの唄をリフレッシュしている｡7曲目"Nigel"というナムバーは家族付き合いをしているという Eva Cassidyの父親との共作｡2020作｡Deborah Rose)

*GEMMA MAE ANDERSON:Life B

(13歳から唄作りをしているという Gemmaは17歳の時に関節リウマチを発病｡本作はセラピストの Alice Mullayとの会話の中から､自分の唄で音楽セラピーのチャリティー･アルバムを制作するというアイディアが生まれたという｡音楽セラピーというと癒やしの音楽をイメージしがちだが､｢人生の光と影｣的な Gemmaの唄は影のある唄であっても､また曲調がミディアムテムポであっても､Gemmaのひと言ひと言噛みしめるようなヴォーカルと軽やかなフォーク･ロック風サウンドは光射す優しい音楽に聞こえる｡唄の持つ力について､改めて考えさせる唄によるポジティヴな音楽セラピー･アルバム｡気分は健やか｡裏ジャケにチャリティー番号が記されている｡2019作｡Gamma Anderson)

*NIGEL KENNEDY:Kafka a

(ヴィヴァルディの｢四季｣やジャズやジミヘンの作品をフィーチャーしたアルバムなどクラシック､ジャズ､ロック等ジャンルを超えたスーパー･ヴァイオリン奏者 Nigel Kennedyの1996作｡自分のライヴを｢ギグ｣と呼ぶ彼の音楽は､トラッドやロックのフィドラーのノリの音楽｡あらゆるジャンルの音楽を包含するほど多彩な響きを奏で､緩急自在で超絶｡共演者には Danny Thompsonや Rory McFarlaneやカナダの女性SSWの Jane Siberryも｡20数年前の音楽なのに､今も輝いている｡1996作｡Canada EMI｡検品してお送りします)

*MIKE HANRAHAN:What You Know B

(Stockton's Wingの元フロントマンの Mike Hanrahanの2002年作｡プロデュースは Tír Na NÓg､Scullionの Sonny Condell｡全曲自作曲か Sonny Condell他との共作曲｡レイドバックというか､独りの時間を愉しむような浮遊感と夢心地さが心地よい｡適度のフォーク･ロックっぽさも心地よい｡2002作｡Dinky)

*SONNY CONDELL:Backwater Awhile ¥1000

(Tír Na NÓg､Scullionの Sonny Condellの触ると壊れそうなくら優しい唄の世界｡奇跡の SSWアルバム｡w.Garvan Gallagher{ﾍﾞｰｽ､ヴｫｰｶﾙ},Eddie McGinn{ﾄﾞﾗﾑｽ}他｡ラップ包装なしの中古の新

品で、輸送上のトラブルでジャケットの中心にディスクの輪の痕がうっすら付いています。2001 作。Backwater）

*JASON O'DRISCOLL:Dharma a

（アイルランドの SSW の Jason O'Driscoll の 2003 年作。素直で緩やかな唄が心地よい。2003 作。Jason O'Driscoll）

*NILS LOFGREN BAND:Live D

（Nils Lofgren Band～N.Lofgren、Timm Blery{ﾄﾞﾗﾑｽ}、Buck Brown {ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ、ｷﾞﾀｰ、ヴォーカル}、Wade Matthews{ﾍﾞｰｽ、ヴォーカル}～の 2002 年、米国メリーランド州アナポリスでの二枚組ライヴ。"I Dont Wanna Talk About It"、"First Time Ever I Saw Your Face"等を含む全 23 曲。Nils Lofgren はいつもかっこいい。2003 作。Hyperension。検品してお送りします）

*LORRAINE JORDAN:Send My Soul B

（両親がアイルランド人でウエールズ生まれの女性 SSW の Lorrane Jordan の新作は、いつの間にこれほどの SSW に成長したの？！と耳を疑うほど、心動かされる唄の連続。他作曲とは言え、輝く唄を発表していた頃の Mary Black のような輝きのある唄たち。本当に耳を疑うほど一曲一曲がワンパターンではなく素晴らしく、息が止まるほど唄心も表現力も充実しきっている。珠玉の収録曲 12 曲全曲が自作曲というのも驚きだ。w.Sean Whelan,John Wallace, Steafan Hannigan,Cormac Byrne,etc. 2019 作。Hazellville Music）

*LOUISE CONNELL:Squall Echo Tale B

（スコットランドの女性 SSW の Louise の本作は、これまでにリリースした三枚のシングルを一枚のアルバムにまとめた 18 曲収録のファースト･アルバム。細やかな神経の行き届いたシンプルでエレガントな美しい音楽と感受性豊かで細やかなニュアンスに富む印象的なヴォーカルは耳に新鮮で、フォーク風だが、ヴァイオリンやチェロが優雅さを演出し、ウクレレやギターが夢っぽさを演出し、エレキギターが爽快さを演出し、新感覚のフォークを超えた独自の音楽世界を創作している。ヒドゥン･トラックに可愛らしい曲が隠されている。ジャケットは英国の著名ヴィジュアル･アーティストの James Marsh によるもの。2019 作。9th Story）

*RACHEL SERMANNI:So It Turns A

（スコットランドの女性 SSW の Rachel Sermanni の三枚目。スコットランドから離れて、ベルリンの Jazzanova スタジオでライヴ録音された本作は、Rachel のささやくような不思議感のあるヴォーカルは自身のキラキラ感のあるギターなどを伴って、じわりじわりと川のせせらぎ感や森の木漏れ日感が感じられる彼女独特なアンニュイな世界へと誘う。音楽的にはフォークからフォーク･ロックの幅の音楽だが、創作された音楽は Rachel のナチュラル感のあるヴォーカルに呼応して、有機的なナチュラル感があって、Rachel の唄と空気のように一体化している。Rachel Sermanni のサイン入り。2019 作。Rachel Sermanni）

*ODETTE MICHELL:The Wildest Rose B

（素朴な味わいが素敵なハートフォードシャーを拠点に活動する女性 SSW の Odette の初アルバム。トラッド曲"True Lovers Farewell"以外の曲は全曲 Odette の自作曲。Megson の Stu Hanna のプロデュースによる本作は、ほのかに英国トラッドの香りのする爽やかで、愁いのあるブリティッシュ･フォーク。ある種 70 年代の

純良英国フォークとして素直に「良いなあ」と思ってしまう。プロデューサーの Stu に加えて、Phil Beer や Cara Dillon のツアー・メムバーの Toby Shaer のお二人が心から付き添って、野のバラのように美しい Odette の着飾らない唄を優しく引き立てている。2019 作。Odette Mitchell)

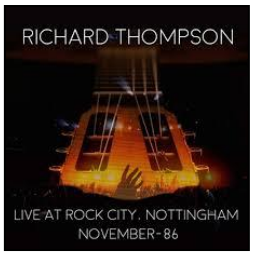
*ANY TROUBLE:Live At The Venue B
(お宝発掘。Christine Collister とのデュオや Richard Thompson Band 参加でも知られる Clive Gregson が結成したパブ・ロック・バンドの Any Trouble の 1981 年のライヴ。Bruce Springsteen 作の "Growing Up"以外の曲は全曲 Clive Gregson 作。Elvis Costello 風のパブ・ロックは清々しい。そして今日の Richard Thompson のヴォーカルに似てると思うことしきり。1981 年/1988 作。Line)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*PAUL MILLNS:Unsang Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music)

*IAIN MATTHEWS:Contact C
(2004 年 12 月ドイツでのアコースティックなライヴ。w.Richard Kennedy{ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ},Mike Roelofs{ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾋﾟｱﾉ}。"Woodstock"を含む全 14 曲。CD-R 仕様。2007 作。It'sAboutMusic.com)

[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]



(Richard Thompson)

*RICHARD THOMPSON
:Live At Rock City Nottingham - November 1986 a
(4/14 入荷済み。ラジオ音源からのライヴ盤で二枚組。バンド・メムバーは、R.T.に John Kirpatrick,Clive Gregson,Christine Collister,Gerry Conway,Rory McFarlane の強力ラインナップ。"Shoot Out The Lights"も演っているが、"Across A Crowded Room"{85 年}と"Daring Adventures"{86 年}中心の曲目のよう。初来日公演をしたのは、1986 年だったと思うが、『包(PAO)』の取材で R.Thompson と J.Kirkpatrick にインタビューに同行。懐かしい思い出。コンサートで R.Thompson が腹痛で何度も演奏を中断というハプニングもあったけ。あの時代の R.T.Band の音楽がライヴで。楽しみ。1986 年/2020 作。SFM)

*FAIRPORT CONVENTION
:Farewell Farewell-40th Anniversary Edition a
(1979 年の Fairport のライヴ・アルバム"Farewell Farewell"の 40

周年記念アルバム。収録曲は"Farewell Farewell"に 1979 年のツアー音源曲 2 曲と 1980 年のシングル曲"Rubber Band"を加えた全 14 曲。メムバーは Simon Nicol,Dave Pegg,Dave Swarbrick,Bruce Rowland の四名。過去の名曲を果敢にロックする音楽を聴いていると、Sandy Denny の声も聞こえてくるような気がする。1979 年/1980 年/2019 作。Edsel)

［CD/ＥＮＧＬＡＮＤ］



(J.Oates&J.Spiers)　　(Steeleye Span)

*JACKIE OATES & JOHN SPIERS:Needle Pin,Needle Pin　　B

(Jackie Oates の新作は何と Spiers & Boden、Bellowhead の John Spiers との共演盤。J.Oates の前作"The Joy Of Living"は娘の誕生と父親の死去とが重なったときに誕生した奇跡の名盤だが、本作はイングランドのトラッドの豊かさと底力を普段着の演唱で実演した名盤。音楽の主導権は Jackie。Jackie がフィドルやピアノを演奏し、シンギングするのに合わせて、John がヴォーカル・ハーモニーし、メローディオンで共演し響演する。実はこの、Jackie の唄や演奏に寄り添って、ダンサブルな演奏をする John{父親はモリスダンサー} の演奏が本作をふくよかな音楽にしている。今年の 1 月に Richard Evans という人の家で収録したという四曲は、Jackie が長年 Nettlebed Folk Club でうたってきた唄だという。加えて、12 曲中 9 曲は手編みものに関連した伝承曲に加えて、自作曲やシェイクスピアの歌曲。音楽の目線は母親になった Jackie の母親＆子ども目線。そうして生まれた音楽は普段の音楽活動の上に育まれたとても心躍り、心和む瑞々しいイングランドのトラッド。ラストは赤ちゃんを寝かす子守唄。身も心もホッコリ。自家製{工作で作ったような見開き紙ジャケ}の限定盤の CD-R であるため、ディスクに{おそらく編み物好きの Jackie Oates の}指紋が付いてるおそれがあります。2020 作。Jackie Oates　& John Spiers)

*STEELEYE SPAN

:Live At De Montfort Hall,Leicester,1977　　a

(タイトルは 1977 となっているが、クレジットには 1978 年 2 月 11 日 De Montfort Hall のライヴと書かれている Steeleye Span のラジオ音源のライヴ。メムバーは 1977 年作の"Storm Force Ten"と同メムバーの M.Prior,Tim Hart,Rick Kemp,John Kirkpatrick,Martin Carthy,Nigel Pegrum で、"Storm Force Ten"収録曲 4 曲を含む全 12 曲。この時代の Steeleye はあまり熱心には聴いていなかったが、今聴くと面白い。既にこの時代から Steeleye 流のフォーク・スタイルは出来上がっていて、違うのは音楽の鮮度と John Kirkpatrick 効果。彼の存在がエレクトリック・ダンス曲を持ち込み、滅茶苦茶ノリの良いカントリー・ダンス風フォーク・ロックを体現していて、英国フォーク・ロックとして濃厚な味わいを発散している。Maddy Prior のシンギングも、また伊達男四人等によ

るヴォーカル･ハーモニーも若々しく、そしてまぶしい。トラッド曲をこうもかっこよく演唱し切った Steeleye の功績は計り知れない。音質も問題なし。1977 年/1978 年/2019 作。SFM)

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime A

(Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人のツワモノによって結成された The Cannon Hill Irregulars なる英国フォーク＆カントリーダンス･バンドのフォーク･ロックの何と魅力的で楽しいこと！Albion Dance Band～Albion Band 系イングランド･スタイルのフォーク･ロックの心髄と言うとかたぐるしくなるが、その心髄をヴォーカル･スタイルや音楽の隅々に盛り込んだような美味し過ぎるフォーク･ロック。感動の嵐。2019 作。Talking Elephant)

*SANDRA KERR:Rebels With Her Chords B

(自身のコンサーティーナの弾き語りに娘の Nancy Kerr がハーモニーで加わった自作曲"Young Girl Upon The Road"で始まるヴェテラン･フォーク･シンガーの Sandra Kerr の本作は、イングランド北東部の伝統音楽をベースにした Sandra 流に消化されたトラッド･スタイルで、トラッド曲や自作曲を N.Kerr & James Fagan 夫妻と一緒にホームメイド感覚で演唱する。その、例えば自宅の庭で生演奏するようなオープンな感覚がすこぶる気持ちよい。2019 作。Sandra Kerr)

*THOM ASHWORTH:Head Canon A

(Folk Radio は「現代の Martin Carthy」と絶賛するイングランドの若きトラッド･シンガーの Thom Ashworth の比類なき新作。毅然としたシンギングが素晴らしいトラッドの名曲"High Germany"で幕開けする本作は、Thom の揺るぎないシンギング、それも荒野に立ち、遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる。渋いフィドルの伴奏であろうが、無伴奏であろうが、またフォークロック調であろうが縦横無尽。名作誕生。2019 作。Thom Ashworth)

*TOM LEARY:Calm Waters C

(お宝発掘！Ric Sanders 一押しのイングランドのフィドル奏者でギターやブズーキの演奏も鮮やかにこなす Tom Leary の 1997 年の唯一のソロ。アコースティックなトラッド･フィドルや Ric Sanders 風ロック･フィドルに加えて、ブルースやジャズ等の音楽性も持った器の大きな演奏家による言うなれば汎英米モザイク･フォーク。Dave Swarbrick＋Rick Sanders＋αの型破りの才能。共演者は Ric Sanders,Phil Beer,Chris Leslie,Kevin Dempsy, Rachel Fletcher,Michael Gregory,Dave Mattacks。もし彼が Fairport に加入していたら･･･想像するだけで面白い。巷では高値。1997 作。Speaking Volume。検品してお送りします)

*ROOT & BRANCH 1 "A New World" C

(厚紙製パッケージが劣化した中古状態の新品。英国の EFDSS 制作の CD ジャーナル。本作のテーマはかつて国境や言語や文化といった様々な垣根を越えて伝承されて現在も歌い続けられている伝統歌を紹介したもの。Cara Dillon,A.L.Lloyd,Doc Watson, Cathal McConnell,Paul Brady,Walter Pardon ほかによる全 20 曲。ちなみに一曲目"Van Diemen's Land"{タスマニア島}は、本作のために Cara Dillon が無伴奏でうたっていて、二曲目ではスコットランド･ヴァージョンを Enoch Kent が無伴奏でうたって

いる{やや Dick Gaughan 風}。1999 作。EFDSS)

*THE DOVETAIL TRIO:Bold Champions B

(Rosie Hood{ヴォーカル}、Jamie Roberts{Gilmore & Roberts の Roberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn{コンサーティーナ、ヴォーカル}の一姫二太郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の二枚目。イングランドのトラッドの伝統的スタイルに立ち返るようなトリオのシンギングとサウンドに気分リフレッシュし、心洗われる。2019 作。GR)

*BILL JONES:Wonderful Fairytale C

(16 年振りの Bill Jones の通算五枚目の新作。w. Anne Hills, Ian Stephenson, Stephen Henderson, Jean-Pierre Garde, etc. 2019 作。Brick Wall Music)

*KATHRYN TICKELL & THE DARKENING:Hollowbone B

(Kathryn Tickell の本作はユネスコ文化遺産にも登録されているイングランド北部、スコットランドとの境界線近くに築かれたローマ帝国最北端の国境線のハドリアヌスの長城から発掘された古代の楽器"Hollowbone"に触発されて制作した挑発的で斬新な先鋭ノーサンバーランド音楽で、そのピュアーな想像力故のエネルギーはプログレッシヴ・トラッドとでも呼びたいほど。音楽のレンジもアラブ風音楽の域にも達しようかと思えるほど。伝統音楽をベースに想像力を限りなく膨らませた音楽は圧巻。2019 作。Magnetic North East)

*RUTH NOTMAN & SAM KELLY:Changeable Heart B

(10 年振りの Ruth Notman の三枚目。本作はアイルランド系英国人シンガーでマルチ楽器奏者の Sam Kelly とのデュオ・アルバム。仕掛け人は Kate Rusby のご主人で、本作のプロデューサーの Damien O'Kane。本作は Ruth の 2007 年のデビュー作"Thread"と通じる音楽性を保持していて、"Thread"の延長線上の素朴だが極上の男女のデュエット版として結実している。Ruth の素朴なシンギングは Kate Rusby のシンギングを想起させもする。2019 作。Pure)

*THE TRANSPORTS "A Tale Of Exile And Migration" A

(Peter Bellamy の伝説的名作"The Transports"{オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的実話をもとに制作されたバラッド・オペラ}から 40 年。その"The Transports"を新たなラインナップで、再演したもの。全 28 トラック。2018 作。Hudson)

*JOE HUTTON:Northumbrian Piper C

(Kathryn Tickell に多大な影響を与えたスモールパイプ奏者の Joe Hutton{1923-1995}の名作。1994 作。East Allen Recording)

[CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ系]



(Salt House)



(Maggie MacInnes)

*SALT HOUSE:Huam B

(スコットランドの古いバラッドや詩をヒントに独自のハイセン

スなスコティッシュ･フォーク/トラッドを創作する Salt House ～SSW でマルチ楽器演奏家の Jenny Sturgeon{ヴｫｰｶﾙ､ﾊｰﾓﾆｳﾑ､ｷﾞﾀｰ､ﾋﾟｱﾉ他}と Rant のメムバーの Lauren MacColl{ﾌｨﾄﾞﾙ､ヴｨｵﾗ､ヴｫｰｶﾙ､ｸﾞﾛｯｹﾝｼｭﾋﾟｰﾙ}と Shooglenifty のメムバーの Ewan MacPherson{ヴｫｰｶﾙ､ｱｺｰｽﾃｨｯｸ&ｴﾚｷｷﾞﾀｰ､ﾀﾞﾙｼﾏｰ}と}の新作。アルバム･タイトルの Huam は｢夏の暖かい日のフクロウのうめき声｣という意味らしい。これまであまり意識しなかったが､Jenny のシンガーとしての魅力。一曲目の Fire Light"をはじめ､スコティッシュの香りを放ちつつも､Sandy Denny のイメージとどことなく重なるヴォーカルと曲調。同じ Hudson Records からアルバムを発表している Karine Polwart 並に天賦の才を有するスコティッシュ･シンガーであると確信した。本作は 19 世紀～20 世紀の詩人の詩をヒントに作詞作曲された唄が中心だが､鳥類生物学者でもある Jenny の生き物や野性への共感が音楽にも感性豊かに反映されていて､唄も音楽もとても細やかで彩り豊かで神秘的で耳に新鮮。様々な楽器を彩り豊かに操る Alan Bell のプロデュース力も､それに応える三名の職人技も見事。二番手シンガーの Ewan の穏やかなシンギングが本作に厳かな平穏さを添えている。フクロウのうめき声が聞こえる?不思議の世界に誘われる感覚。スコティッシュ･トラッドの豊穣さからポロリと産まれた静かな大傑作。2020 作。Hudson)

*MAGGIE MacINNES:Port Ban B

(スコットランドを代表するトラッド･シンガーでハープ奏者の Maggie MacInnes の新作で通算六枚目。本作は母の著名トラッド･シンガーの Flora MacNeil から教わったゲール語の家族伝承歌を中心に演唱したアルバムで､Maggie の息子の Ruaraidh{ヴｫｰｶﾙ}と Calum{ｷﾞﾀｰ､ﾌｨﾄﾞﾙ}の二人に Angus Lyon{ｱｺ}､Anna Massie{ｷﾞﾀｰ､ヴｫｰｶﾙ}､Chris Waite{ﾎｲｯｽﾙ､}Brian McAlpine{ｱｺ､ﾋﾟｱﾉ}が共演。Maggie のシンギングは､彼女の音楽を評価するのがおこがましく思えるほど､かつてなく渾身という言葉が相応しい心からのシンギングで圧巻。はて､これほど心に沁みるスコットランド･ゲール語の伝承歌アルバムはあっただろうか。アルバムを通して､わき上がる押し殺したような悲哀感が流れている。本作は 2015 年に他界した Flora MacNeil に感謝の気持ちを表わし､彼女の霊に捧げられている。2020 作。Marram Music)

*MAGGIE MacINNES:Peaceful Ground A

(自身のハープ又はピアノの弾き語りによるスコットランド･ゲー語の唄の美しさと気高さは流石。伝統歌の世界の長い旅をしたかのような計り知れぬほど深く美しいアルバム。w.Flora MacNeil, Graeme Hughes, Cairistiona MacInnes, Marie Fielding, Finlay MacDonald, etc。2004 作。Marram Music。検品してお送りします)

*NORTHERN FLYWAY:Northern Flyway B

(Northern Flyway は Salt House の Jenny Sturgeon{ヴｫｰｶﾙ､ｱｰﾓﾆｳﾑ､ﾀﾞﾙｼﾏｰ}とシンガーでマルチ楽器演奏家の Inge Thomson{ヴｫｰｶﾙ､ｱｺ､親指ﾋﾟｱﾉ､ﾌﾙｰﾄ､ｼﾝｾ､ｳｪｰﾌﾞﾄﾞﾗﾑ他}の二人が立ち上げた鳥保護音楽プロジェクト。鳥の鳴き声も取り込んだ本作は､同じレーベルから発売された Karine Polwart{Inge Thomson は Karine Polwart Band のメムバー}の自然環境保護への思いを込めた "A Pocket Of Wind Resistance"と通底する夢のように清々しいスコティッシュ･フォーク/トラッド･アルバム。w, Jason Singh,

Sarah Hayes。2018 作。Hudson)

*LAUREN MacCOLL:The Seer B

(Rant そして Salt House のメムバーでスコットランド屈指のフィドル奏者の Lauren MacColl の本作は、17 世紀に生きたとされるスコットランドの予言者ブラハン・シーアの人生と予言に Lauren がインスパイヤーされて創作したもの。Lauren は子どもの頃に本で読んで抱いた不思議さをそのままスコティッシュ・トラッドのスタイルで、精霊たちが棲む森を探検するような不思議な音楽を創作していて、ゾクゾクっと奥が深い。w.Rachel Newton, Mairearad Green,Megan Henderson,James Mackintosh,Anna Massie。2017 作。Fais Rois)

*KARINE POLWART:This Earthly Spell(2008 作。Hegri Music) A

*CLUTHA:Live From Harvard B

(屈指のトラッド・シンガーの Gordeanna McCulloch を擁したスコットランドの先駆的トラッド・グループ"Clutha"の 1981 年のライヴ。Silly Wizard や Boys Of The Lough ほどの知名度はなかったが、当時、Jeannie Robertson や Belle Stewart のようなバラッド・シンガーと肩を並べるシンガーと評された Gordeanna のシンギングともう一人のリード・シンガーの Ronnie によるシンギングを含めて、スコティッシュ・バンドとして既にスコテイッシュ・トラッドの完成形を体現していて、改めて彼らの偉大さを思い知らされる。2019 作。The Clutha)

*STUART A JACKSON:M'arach B

(副題"Gaelic Songs From My Upbringing"。スコットランド西部のモバーン出身の若きゲール語シンガーの Stuart A Jackson のデビュー作。穏やかなスコティッシュ・サウンドを伴った Stuart の柔和で初々しいシンギングは、何十年も前に Arthur Cormack のゲール語トラッド・アルバムを初めて聴いたときの感動を思い起こさせる。今どき稀有のピュアーで美しい男性ゲール語シンギング・アルバムだ。w.Mary Ann Kennedy,Nick Turner,Archie McAllister,Ross Wilson,Finlay Wells,Angus MacColl,etc. 2019 作。Clachan Music)

*RUNRIG:Best Of The Last Dance - Farewell Concert C

(2018 年 8 月に Runrig の活動 45 年を記念して行われた Farewell Concert のライヴ二枚組。全 25 曲。横綱級スコティッシュ・フォーク・ロックのオンパレード。2019 作。RCA)

*RUNRIG:In Search Of Angels a

(この時代の Runrig も最高。70 年代の西海岸ロックくらいかっこいいスコティッシュ・フォーク・ロック。1999 作。Sony Music)

*RUNRIG:The Essential Runrig a

(1979 年から 1996 年までの音源からの 16 曲収録コンピレション。2007 作。Capitol)

*CALM AND RORY MacDONALD:The Band From Rockall B

(Runrig の創設メムバーの Calm&Rory 兄弟の本作は、感涙のスコティッシュ・フォーク・ロック。ロックやポップスに熱狂した青春時代に想いを馳せた心からの唄とロックはどこか懐かしくって、あったかい。2012 作。Ridge)

*ALISTAIR OGILVY:Leaves Sae Green A

(スコットランドの伝統歌を中心に Andy M.Stewart や Davy Steele 等の曲を伸び伸びとシンギング。そのスコットランド・スタイル

のシンギングが気持ち良い。w.Steven Polwart,Aly Macrae, Inge Thompson。Produced by Mattie Foulds。2012 作。Greentrax)

*DICK GAUGHAN:The Harvest Tapes A

(副題"The Definitive Gaughan Concert From 1982"。本作は名盤"Handful Of Earth"の翌年の 1982 年に、Dick Gaughan が米国マサチューセッツにある Old Cambridge Baptist Church で行ったライヴ 10 トラック{12 曲}と未発表音源曲 3 トラックを加えた 13 トラック{15 曲}を収録したアルバム。37 年前の D.Gaughan の弾き語りライヴは、正に正座して「拝聴」したくなるほど、見事な Gaughan 節に身震いさせられる。2019 作。Greentrax)

*THE ROUGH GUIDE TO SCOTTISH MUSIC ¥1500

(副題"Contemporary Traditions:Highland Roots & Island Reels"。2003 作。World Music Netork。検品してお送りします)

*MAIRI SINE CHAIMBEUL:Thall An Loch Aillse A

(Mod の優勝者でスコットランドのゲール語の女性トラッド・シンガーの Mairi Sine Chaimbeul の 2007 年の名作。彼女の素朴なガーリック・ソングの数々は、荒野に咲く一輪の花的に美しく味わい深い。w.Mary Ann Kennedy,Seoras Campbell,Findlay Napier, Hamish Napier,Ali Hutton,James Graham,Gillebride MacMillan。2007 作。Macmeanmna)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。





(Muireann NicAmhlaoibh) (Bonny Men)

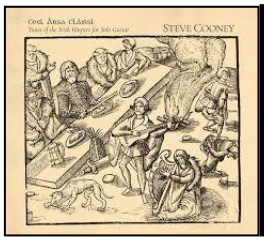
*MUIREANN NIC AMHLAOIBH:Thar Toinn / Seaborne a

(元 Danúのヴォーカルでアイルランドを代表する女性トラッド・シンガーの Muireann Nic Amhlaoibh の待望の新作。Gerry O'Beirne の炭酸水の泡のような控えめな美しいギターの伴奏で、時の流れが止まってしまうほど、ゆったりとして哀愁のある Muireann のゲール語の唄で静かに幕開けする本作は、続く Julie Fowlis がバッキング・ヴォーカルを添えるゲール語の唄"Air Failirinn Iu"も、スコティッシュ色を帯びるものの、その悲哀感を押し殺したような得も言われぬ静かな哀愁は不変。三曲目に軽やかなリルティングとダンス曲のメドレーを挟んで、四曲目、五曲目、六曲目とその都度、ギター、フィドル、フルート、ピアノと伴奏楽器を変えて、音楽の彩りを変えつつも、静かな哀感は続く。実は本作は海をテーマにしたミニアルバムで、収録曲は六曲。しかしこの六曲は時の流れを忘れてしまうほど、悠久感があって、感涙の度合いも計り知れず。多くのシンガーの名歌唱で知られるトラッドの名曲"Blackwaterside"のシンギングは、ベスト中のベスト。比較できるルバムが思い当たらないほど珠玉のトラッド・シンギング・アルバム。Muireann はまるで海の精霊。2020 作。

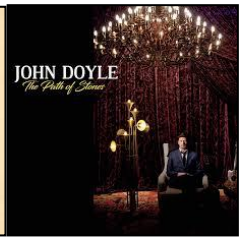
Muireann Nic Amhlaoibh)

*THE BONNY MEN:The Broken Pledge B

(一姫六太郎のアイリッシュ･トラッド･バンドの The Bonny Men の新作で通算三枚目。バンド･メムバーに著名なミュージシャンはいないが、イリアンパイプス、フィドル、ホイッスル、フルート、各種ギター、ブズーキ、バウロン、ピアノによるアイリッシュ･サウンドは、Planxty の調和力と De Dannan の躍動力を混ぜて、勢いづけたようなワクワクするアイリッシュを創作している上に、各楽器の特長を活かした旨みのあるアイリッシュ、さらに心に響くシンギングなど、総合力でスーパー･アイリッシュ･バンドの風格と醍醐味。アイリッシュ魂が脈打つアイリッシュを久し振りに体感した。1798 年のアイルランド反乱の時代のゲーリック･ソングや Ewan MacColl の"Tunnel Tigers"や Julia Clifford のジグ曲などひと癖ある全 10 トラック。2020 作。C&P Bonnyhound)



(Steve Cooney)



(John Doyle)

*STEVE COONEY:Ceol Ársa Cláirsí C

(英題"Tunes of the Irish Harpers for Solo Guitar"。ヴェテラン･アイリッシュ･ギタリストの Steve Cooney による優美で清々しいアイリッシュ･ギター･アルバムだ。演奏する曲は 17 世紀～18 世紀のアイリッシュハープ曲。曲目は 1792 年に開かれた The Belfast Harp Festival と Edward Bunting の出版物{1976-1984}からが大半で、加えて 17 世紀～18 世紀のハープ曲の収集とアレンジに熱心なハープ奏者の Kathleen Loughnane 収録曲等。本作は身近に奥様でハープ奏者の Laoise Kelly がいたからこそ誕生したことは疑う余地がない。結婚する前ご本人はおそらく 17 世紀～18 世紀のアイルランドに数多くのハープ曲が演奏されていたことを知らなかったのではないだろうか。Steve Cooney が爪弾くアコースティック･ギターの響きは、アイリッシュ･トラッド/フォークの純粋な香りを放っている。それは当たり前のことで、ハープで爪弾かれた音楽は 17 世紀～18 世紀にアイルランドで演奏されていた音楽なのだから。それらの曲を心あるフォーク･ギタリストが誠心誠意演奏したことに意味があるし、その生まれたアイリッシュ音楽の瑞々しさに驚かさせる。全 14 曲、耳が静かに釘付けになる。良い音楽をありがとう。2019 作。Steve Cooney)

*JOHN DOYLE:The Path Of Stones A

(4 月 15 日入荷済み。ネットで視聴。ご存じ元 Solas そして Usher's Island そして現在 John McCusker と Mike McGoldrick の二人とトリオで、そして Mike と組んで活動しているアイリッシュ･シンガーでギター奏者のの John Doyle の 9 年振りのソロで通算三枚目。John McCusker と Mike McGoldrick が共演した本作は、トリオではライヴで行っている音楽をライヴ感覚で演唱していて、スッと楽しめる友達感覚の音楽だったが、ソロ名義の本作は、主役の J.Doyle のギター等の弾き語りをベースにした唄一曲か

二曲に自身のギターやブズーキをフィーチャーしたダンス曲のメドレーを挿入した構成で、勢いヴェテラン･アイリッシュ･トラッド･シンガーそしてアイリッシュ･ギタリストとしての並々ならぬ魅力が浮き上がっている。この味わいは誰かに似てると思ったら、そうだ。Usher's Island のバンド仲間の Andy Irvine だ。M. McGoldrick とのデュオのＣＤでも感じていたが、うたいこんだ円やかなシンギングといい、粒立ちの良いギター等の演奏といい、益々似てきた。Dervish の Cathy Jordan も参加してるそうだが、参加してるのは、9 トラック目の"Teelin Harbour"というシーシャンテ風の唄の男勝りなバッキング･ヴォーカルのようだ。John Doyle も良いアイリッシュ･ミュージシャンになった。Solas 以前、始まりはブリティッシュ･フォークだったけど。人との出逢いが人を育てる。公式リリースは 5 月 1 日。2020 作。Compass)

*JOHN DOYLE & MIKE McGOLDRICK
:John Doyle & Mike McGoldrick B
(Solas～Usher's Island の John Doyle{ｷﾞﾀｰ、ﾌﾞｽﾞｰｷ、ｳﾞｫｰｶﾙ}と Capercaillie～Usher's Island の Mike McGoldrick{ﾌﾙｰﾄ、ﾎｲｯｽﾙ、ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}の新作。コピーライトは 2018 作。なめらかな M. McGoldrick のフルートの演奏とピリ辛の利いたソリッドな J. Doyle のギターによるリール曲三曲のメドレーで爽快に幕開けする本作は、様々なタイプのアイリッシュを余裕綽々の名演奏で楽しませる。演奏の豊かさのみならず、三曲でノドを振るわす J. Doyle のシンギングが素晴らしい。Peter Bellamy や Kate Rusby のシンギングで知られるトラッドの名曲"Lovely Willie"は Andy Irvine のような柔和な味わいがあって絶品。旨みたっぷりのアイリッシュ。Boxroom Music)

*MIKE McGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog B
(1995 年の"Champions Of The North"以来、二人による二作目。2018 作。Boxroom Music)

*EUGENE LAMBE WITH MICHO RUSSELL:Trip To Fanore C
(1980 年代半ばに GTD Heritage からカセットテープでリリースされたクレアのイリアンパイプス、ティンホイッスル、フルートの演奏家で楽器職人の Eugene Lambe の歴史的名盤"Trip To Fanore"に Micho Russell とのコラボを４トラックを含む６トラックを加えてリリースされた編集盤。録音された年代は関係なし。録音状態がすこぶる良く、クレア･スタイルのアイリッシュが生き生きと奏されている。各楽器の音色も生音のように美しく響き渡っている。マンドチェロやバウロンとの共演曲も含む全 18 トラック/32 曲。2019 作。Trad Ireland)

*YE VAGABOND:Hare's Lament C
(Ye Vagabond は Brían & Diarmuid Mac Gloinn の兄弟デュオ。本作収録のアイルランドの伝統歌は祖父のアーカイブ音源から学んだという。その音源が何かは分からないが、彼らがブズーキ、ギター、マンドリン、フィドルの伴奏で自然体で創り出すアイリッシュ･フォークは、70 年代の Andy Irvine や Paul Brady や 70 年代の英国のトラッド･シンガーを想起させる。トラッドの名曲"Willy O Winsbury"などは僕の耳には Ann Briggs のシンギングと重なる。2019 作。River Lea)

*FRANKIE GAVIN WITH THE CARL HESSION ORCHESTRA
:Shamrock & Holly C

(限定入荷。クリスマス曲全 14 曲。2013 作。Tara)

*KEVIN KEEGAN:The Music Of Kevin Keegan C

(お宝発掘。1924 年東ゴールウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住したという Aughrim Slopes Ceili Band{1950 年代活躍}のアコ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない？と思えるほどの早弾き。全 23 トラック。2004 作。Clo Iar-Chonnachta)

*SEAMUS TANSEY:King Of The Concert Flute C

(お宝発掘。リマスター盤。スライゴー出身で 1965 年オールアイルランド･チャンピオンのアイリッシュ･フルートの巨匠 Seamus Tansey の 1976 年のソロ。各種ダンスのリズムをきっちりと刻む Charlie Lennon のﾋﾟｱﾉの伴奏をお伴に、Seamus は即興的に生き生きしたフルート演奏を繰り広げる。アイリッシュ･フルートのお手本。1976 作。Sound)

*CIARAN TOURISH & KEVIN DOHERTY:Hotel Fiesta B

(Altan のフィドル奏者でマルチ楽器奏者の Ciaran Tourish と Four Men And A Dog のヴォーカル兼ギター奏者の Kevin Doherty のコラボ。予想通りの Ciaran のフィドル又はフルートと Kevin のギターによるアイリッシュと Kevin Doherty のヴォーカルをフィーチャーした米国フォーク/SSW タイプの曲が混在。百戦錬磨の Ciaran のフィドルはアップテンポでスリリングなアイリッシュから、Kevin の米国風音楽にすり寄って渋いアイリッシュまで自由自在。2019 作。MIG)

*KEVIN DOHERTY:Strange Weather ¥1290

(米国のウッドストックにある Levon Helm Recording Studio で収録の Four Men And A Dog の Kevin Doherty のソロ。若い頃の Kevin のナイーヴな感性が光る SSW アルバム。Produced by Aaron Hurwits。ゲスト:Rick Danko,Amy Helm。1999 作。Key Recordings)

*BIRKIN TREE:Five Seasons B

(イタリアのアイリッシュ･ミュージック･バンドの Birking Tree の驚きの新作だ。全曲でパイプ奏者の Mick O'Brien の娘で RTE RnaG フィドル･コンペティションで優勝経験のあるフィドル奏者の Aoife Ní Bhriain がバンドの一員となって、いやむしろリーダーシップを発揮して演奏して制作されたもので、フィドルをメインにしてフルート、ホイッスル、イリアンパイプス、ギターなどのセッションから生み出されるアイリッシュの何とハイレベルなこと！ダンス曲ではハイレベルなセッションを繰り広げ、エアー曲では感情のこもった演奏で心底酔わせる。加えて、新加入のヴォーカルの Laura Torteirolo 嬢のアイリッシュ･スタイルの佳麗なシンギングが滅茶苦茶素晴らしく、息をのむ。2019 作。Felmay)

*BIRKIN TREE:Virginia B

(Martin Hayes & Dennis Cahill がゲスト参加の Birkin Tree の 2010 年のアルバム。2010 作。Felmay)

*SIBEAL:Sibéal ¥2390

(ゲールタハトで育ったという若き女性シャンノース･スタイルのシンガーの Sibéal Ní Chasaide の息をのむデビュー作。アイルランドのメジャーレーベルからのリリースで、一般的なフォーク･ミュージックとは一線を画す高品質感のあるケルティック･ムードの厳かなサウンドの音作りが成されていて、彼女の悠久感あるシャンノース･スタイルのシンギングと相まって、心奪われてしまう。

w.Steve Cooney,Tommy Hayes,Briocan Bairead,Geraldine O Doherty,Gucci Gelald Peregrine,Niadh & Roisin Ní Chasaide。2019 作。Universal)

*KATE PURCELL:A Dream Unfolds... A

(アイルランドの女性 SSW の Kate Purcell の 1997 年作。彼女のふんわりとして夢のある唄は夢の小道を歩くように夢心地。Mary Black を円やかにした感じで胸キュン。w.Jimmy Faulkner, Josephine Marsh,Tommy Hayes,Liam Lewis,Noel Barrett,etc. Produced by PJ Curtis。ラップ包装なしの中古の新品。1997 作。Dream)

*TOSS THE FIDDLE "The Philadelphia Ceili Group's 27th Annual Festival Of Irish Music And Dance B

(開封。Tommy Peoples,Liz Carroll,John Doyle,Dezi Donnelly, Cathal Hayden,Billy McComiskey,Brendan Mulvihill,Sean Tyrrell,Zan McLeod ほか。2002 作。Philadelphia Ceili Group)

*MICHAEL COONEY:A Stone's Throw(2003 作。Gortnahue) C

*JASON O'ROURKE:The Bunch Of Keys A

(副題"Irish Concertina Music"。2000 作。Outlet)

*SKIPPER'S ALLEY:Skipper's Alley B

(2014 作。Skipper's Alley)

*TONY MacMAHON:Farewell To Music B

(本作は Tony MacMahon が手の震えの病なる前の 2009 年収録の未発表音源、それもスローエアーばかりを演奏したもの。全 13 曲。Tony がボタン・アコーディオンの演奏に傾けるエネルギーは、聞き流すのが失礼に思えるほど、静かな気合いに満ちたもの。全アイリッシュ蛇腹奏者が見習うべき音楽。2009/2016 作。Raelach))

*PATSY MOLONEY:The Temple In The Glen B

(リムリック出身のフルート奏者で 1977 年にフルート部門のオールアイルランド・チャンピオンという Patsy Moloney のファースト・ソロ・アルバム。Mary Corcoran のピアノ又は Noreen O'Donoghue のハープとの共演による本作は、とてもリラックスしていて、聴いていて小春日和な心地よさ。2015 作。Patsy Moloney)

*GARRY SHANNON・ORFHLAITH NI BHRIAIN :Loose The Head C

(CD-R。with Sharon Shannon,Mary Shannon,Majella Shannon, Steve Cooney,Mossie Griffin,Eoin O'Neill。1995 作。GTD Heritage)

*JOHNNY DUHAN:Just Another Town(1992 作。Bell) B

*JOHNNY DUHAN:Don Quixote(2008 作。Bell) B

*JOHNNY DUHAN:The Burning Word(2014 作。Bell) B

*GAVIN WHELAN:In Full Flight(2009 作。Tara) A

*JOHN BLAKE,LAMOND GILLESPIE,MICK LEAHY :The Traditional Irish Music From London B

(2003 作。Archway)

*JOHN GORDON:The Humours Of Glendart B

(Traditional Irish Music Played On The Fiddle。2005 作。JGCD01)

*JOHN DALY:Irish Traditional Fiddle(2003 作。Ossian) B

*SEAN MAGEE:Ye Fidlers Fate B

(タイトルは Fiddlers ではなく Fidlers となっている。All Ireland Fiddle Champion。発売年不明。SMGCD-1001。CD-R。)

*BRENDAN LARRISSEY AND MIKE CONSIDINE:Up The Moy Road　B
（発売年不明。Brendan Larrissey And Mike Considine）
*THE WEST OCEAN STRING QUARTET:As Fond Kiss　C
（ゲスト:Maighread Ni Dhomhnaill。2009 作。West Ocean）
*MATT MOLLOY:Matt Molloy　C
（英国盤。1976 年。Mulligan）
*ANDY IRVINE ・ PAUL BRADY:Andy Irvine ・ Paul Brady　C
（英国盤。1976 年。Mulligan）

[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ、ｵｰﾙﾄﾞﾀｲﾑ他}]

*ELIZABETH ROGERS & EUGENE FRIESEN:Down In Yon Forest　B
（副題"Songs Of Christmas & Winter"。新感覚のケルティックなクリスマス･アルバム。米国ヴァーモントを拠点に活動する女性SSW のシンギングはケルトを夢想する北米の女性シンガーらしいクリスタルな輝きのあるシンギング。Paul Winter Consort のメムバーの Eugene Friesen が新感覚のディープな味わいのあるチェロの伴奏で、厳かで深みのあるケルティックなクリスマス･アルバムを創作している。ケルティックなセンスはカナダの Loreena McKennitt に通じるが、チェロのサウンドがオリジナル性を高めている。Loreena もアルバムに収録しているクリスマス･キャロル"Drive The Cold Winter Away"他全 10 曲。2019 作。787340 Records）
*MINNIE & THE ILLYWHACKERS:Make Me Yours　A
（ウクレレをフィーチャーしたアイルランドの機嫌なグッド＆オールドタイム･ミュージック･バンドの 2013 作。古臭いジャズやカントリーやブルースやポピュラー音楽が混ざり合って、リズムが楽しく躍るように心地よい。シンガーの Minnie のセピア色のノスタルジックな唄は、風に乗るような軽やかな歌声でうっとり。2013 作。Rualla）
*GEORGIA KELLY & DUSAN BOGDANOVIC:The Journey Home　A
（女性ハープ奏者と男性クラシック＆ジャズ･ギター奏者によるニューエージ･ミュージック。全 7 曲中 3 曲がユーゴスラビアの伝統曲で、極上のアラブ＝東欧風に異国情緒な夢見心地音楽。1989 作。Global Pacific。本 CD は昔米国盤 CD で一時期流行った縦長のプラスティック製パッケージ仕様ですので、解体し、通常 CD 仕様にてお送りします）
*TODD MENTON:Where Will You Land　A
（元 Boiled In Lead の T.Menton の 2003 年作。米国フォークであろうが、英国トラッドであろうが、アイリッシュであろうが、向かう姿勢が根源的。アパラチアの山中に引き込んだと思いきや、パワフルなフォーク･ロックで歓喜させる。2003 作。New Folk）

[CD/ＡＵＳＴＲＡＬＩＡ]

*RUTH HAZLETON:Daisywheel　C
（Kate Burke & Ruth Hazleton の Ruth のソロ。同年作の Luke Plump & Kate Burke のブリティッシュ･フォーク/トラッド風アルバムも惚れ惚れとしたが、本作はそれに勝るとも劣らず圧巻。トラッド曲と Ruth の自作曲がほぼ半々という曲目だが、先ず気候変動や女性の権利や弱者問題をグローバルな視点て唄にした自作曲や Nic Jones の唄に触発されたというトラッドの名曲"Ten

Thousand Miles"や長年不思議で美しいKaren Daltonの唄に魅了されているというトラッド曲の"Same Old Man"{"In My Own Time"に収録}等、Ruthのシンギングの揺るぎなさと奥深さは身が引き締まるほど。加えて、プロデューサーのLuke Plumbの音創りはブリティッシュ・フォーク/トラッド～フォーク・ロック＋αの彩りを創作していて、舌鼓を打つ。2019作。Ruth Hazleton)

*SIMON BRADLEY & LUKE PLUMB:Wintering Out B
(スコティッシュ・フィドル奏者のS.Bradleyと当時Shooglenifty のL.Plumbのフィドルとブズーキのコラボ。スコティッシュ、アイリッシュそしてアストゥリアスの曲を初雪の新鮮さで清々しく演奏する。ヤッホーの快楽さ。2004作。Shoogle)

*KATE BURKE & RUTH HAZLETON:Swapping Seasons A
(オーストラリアの女性ヴォーカル・デュオの三枚目。かつてのベストセラー。やや劣化。2002作。Kate&Ruth)

*KATE BURKE & RUTH HAZLETON:Summer's Lonesome Tale A
(アイルランドと英国のフォーク＆トラッドと米国のオールドタイム・ミュージックがほどよくブレンドされたKate&Ruthの四枚目。かつてのベストセラー。ゲスト:Andy Irvine, Bruce Molsky。2007作。Tradsville)

*SIROCCO:The Evergreen Realm C
("Live At The Royal Botanic Gardens Sydney"。1992作。Jarra Hill)

*A.L.LLOYD:The Old Bush Songs(1994作。Larrikin) ¥3500

*MARA:Don't Even Think(1990作。Sandstock Music) C

*MARTYN WYNDHAM-READ:Undiscovered Australia C
(1996作。Musica Pangaea)

*MARTYN WYNDHAM-READ & NO MAN'S BAND:Back To You C
(2010作。Wynding Road)

[CD/ＬＡＰＬＡＮＤ]

*JOHAN ANDERS BAER:Guovssu B
(ヨイク・シンガーのJohanのずしっとロックっぽいヨイク・アルバム。Johanの呪術的なヴォーカルの宇宙的な土俗性に敏感に反応するようにサウンドのヴォルテージが上がる。表面的にはロックっぽいが、音楽は根源的だ。1997作。DAT)

*ASSU:Assu B
(Áššuはサーミの伝統的なヨイク・シンガーのUlla Pirttijärviのシンギングをフィーチャーした三人組。Ullaがうたうヨイクの濃さは、並外れている。霊的というか節回しには聖と俗が混ざり合って至芸の域。素晴らしいのは彼女のシンギングのみならず、彼女のヨイクにインスパイヤーされて共演者になったという各種ギターのOlav Torgetと各種打楽器のHarald Skullerudの演奏の精神性の高さ。彼ら本来の音楽性は西アフリカ音楽だが、二人はUllaの高潔な唄と出逢ったことで、西アフリカ音楽から学んだ演奏技術と感性をフルに発揮して独自のヨイクの音楽へと深化させ、類い稀なヨイク音楽へとレベルアップしている。2019作。Bafe's Factory/Nordic Notes)

[CD/ＮＯＲＷＡＹ]

*ATTERLJOMEN:Tonar I Tre B

(Lom{ロム}というフォーク･ミュージックが盛んな地方で育った Astrid Sulheim と Bjørn Kåre Odde と Aslak Brimi の三人のフィドル奏者のトリオ"Atterljomen"による本作は､Bjørn と Aslak が長い間に収集した Lom と Skjåk という地方のフィドル音楽集。曲目は 19 世紀から 20 世紀に活躍したフォーク･ミュージシャン達の楽曲。個々に作曲者は異なるが､三人が三色の音色で織り上げた音楽は紛れもなく極北ノルウェーのトラッドであり､フィドル･ミュージック。心洗われる全 16 トラック。2019 作。Ta:lik)

*KELPIE:Danse Mi Vise B

(ノルウェーの妖精歌姫 Kerstin Blodig とケルティック･ギター名手でシンガーの Ian Melrose の男女デュオの Kelpie の六枚目。英題は"Dance My Song"。前作のクリスマス･アルバムに続く本作は全天候型の音楽の作りどきと思い､二人の心から愛する唄を演唱したという。白日夢というか夏の夜の夢というか､Kerstin の夢想ヴォーカルと Ian の芸術的ギターとによるケルト＆北欧ミックスの夢想音楽にアイリッシュや SSW 風ナムバーやトゥイン･ギターのインスト曲や環境活動家のグレタの運動に触発されて作ったという自作曲などを盛り込んだ色とりどりの音楽。それらの音楽は北欧の長い夏の日にふと思い起こしたようなリラックスして夢がかった音楽。2019 作。Westpark)

*KERSTIN BLODIG&IAN MELROSE:Kelpie A

(今では珍しい CD-ROM 機能付 CD。事実上の Kelpie のデビュー作。ダンサブルなマウスミュージック等､ノルウェーのトラッドのコアの味わいを深めた身の毛もよだつ気品高いオリジナルなトラッド。歌詞英訳付。CD-ROM ではライヴ演奏が楽しめる。2003 作。Alula。検品してお送りします)

*BERIT OPHEIM:Eitt Steg A

(ノルウェーのグラミー賞と呼ばれているノルウェーの音楽賞の Spellemannprisen にノミネートしたノルウェー屈指の女性トラッド･シンガーの B.Opheim の 1996 年のデビュー作。教会で収録されたという本作は､彼女の身が引き締まるようなトラッド・シンギングに圧倒される。これ以上の北欧トラッド･シンギング･アルバムはないと思えるほど､高い精神性で充実している。1996 作。NORCD)

*ASA JINDER:Tio Ar Som Riksspeleman 1979-1988 C

(1988 作。Eagle)

*ASA JINDER:Stilla Ro Och Nara(1988 作。Eagle) C

*ASA JINDER:Dansa Mej En Gladje(1990 作。Golden Eagle) C

*UNNI LOVLID:Rite(2009 作。Grappa) B

*KARI BREMNES:Svarta Bjorn B

(1998 作。Kirkelig Kulturverksted)

*WIZARD WOMEN OF THE NORTH a

(ノルウェーのトラッド･シンガーとミュージシャン{Tone Hulbaekmo,Annbjorg Lien,Sinikka Langeland,Aurola Borealis,Asne Sunniva Soreide,Kirsten Braten Berg,etc}を中心にフィンランドから Tallari{1 曲}と Tellu{2 曲}そしてスウェーデンから Susanne Rosenberg{2 曲}を加えた編集 CD。全 19 トラック。1998 作。Heilo)

[CD/ＳＷＥＤＥＮ]

*SVANEVIT:Gryning A
(Anna Rynefors,Erik Ask-Upmark に Maria Persson{ﾌｨﾄﾞﾙ､ﾌﾙｰﾄ}と Anders Larsson{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾏﾝﾄﾞｰﾗ}が加わった４人組。彼等はスウェーデンの伝統音楽の精神的にも音楽的にももっとも純粋な部分に重きを置き､スウェーデン･トラッドの香り高く清々しく演奏し､Anders が見事なシンギングで酔わす。彼等ほどその伝統性と純粋性を健やかに保持したグループはいないと思ってしまうほど凛として清々しい北欧音楽だ。2005 作。英語解説付。Westpark。検品をしてお送りします)
*AHLBERG,EK & ROSWALL:AER A
(Ranarim のメムバーでスウェーデンを代表するニッケルハルパ奏者の Niklas Roswall と女性フィドル奏者の Emma Ahlberg とギター奏者の Daniel Ek のトリオの三枚目。スウェーデン北部のメーデルパッド地方の古いフィドル曲や祖父から学んだ曲や複写本から見つけ出した曲などフォークやクラシックのジャンルを超えた曲をトラッド･ミュージシャンとしての鋭い感性で愛情深く演奏した素晴らしいアルバム。2015 作。Westpark)
*SIMON SIMONSSON,OLLE SIMONSSON,KJELL-KRIK ERIKSSON & JOEL BREMER:Pigtjusarsvang B
(1945 年､1947 年､1971 年､1978 年生まれのフィドル奏者三名とチター奏者から成るスウェーデンのダンス音楽グループ。四人の演奏家が奏でる音楽は彼らが普段の暮らしの中で､愛し､楽しんだダンス音楽。2013 作。Dimma)

[CD/ＬＩＴＨＵＡＮＩＡ]
*UNDAN:Vidury Mareliu B
(リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Udan のデビュー･アルバム。アフリカの民族楽器の親指ピアノ"ムビラ"の演奏家でシンガーの Judita Butkevičiūtėの聖と俗とを持ち合わせたシンギングの何と魅惑的なこと！Merope の Indre のような夢幻感や悠久感があって､トラッド/フォークとして個性的で音楽の深みが深い。バンスリ､フルート奏者の Adomas Šimkūnas とギター奏者の Laurynas Vaitulevičius とによる音楽は､Merope に通じるが､ムビラの効果や川のせせらぎの音などを含む効果音の導入などミニマル･ミュージック的な不思議感を創り出している。リトアニアの古謡の世界にタイムスリップでもするかのような感覚になる。2018 作。Dangus)
*MEROPE:Naktes B
(便せん様式特殊パッケージ。リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Merope の三枚目。何よりの魅力はリトアニアのカンテレ系弦楽器カンクレスの演奏家でシンガーの Indre Jurgeviliciute の東欧情緒を漂わす夢幻感のあるシンギング。カンクレスの弾き語りのみでも十分にリトアニアのトラッド/フォークとして輝いていると思うことしきりだが､その上にバンスリ奏者の Jean-Christophe Bonnafous とギター奏者の Bert Cools が夢幻感のあるサウンドで静かに彩りを添えている。Indre のシンギングは子守唄のように優しく､リトアニア民謡のメロディとシンギング･スタイルで悠久の音楽を創り出している。2018 作。Granvat)
*SEN SVAJA:Kraitis Is Pelkės B

(3D{立体視}様式特殊ジャケット。2010 年結成のリトアニアの女性ヴォーカル・トリオの Sen Svaja～Dorota Girskienė{ヴォーカル、パーカッション}、Agota Zdanavičiūtė{ヴォーカル、チター、パーカッション}、Živilė Rimšaitė{ヴォーカル、チター、パーカッション}～の二枚目。古代リトアニアのフォーク・ソングに焦点を当てたという本作は、女性トリオ編成の「ブルガリアン・ヴォイス」のリトアニア版の印象だが、彼女達の合唱は個々のシンギングに独創性と即興性と開放感があって、女性ヴォーカル・トリオによる新感覚のフォーク・ソングを瑞々しく創作している。チターの雅びな音色が厳かで不思議なムードを添えている。2018 作。Dangus)

[CD/ＦＲＡＮＣＥ]



(Yann-Fanch Kemener)

*YANN-FANCH KEMENER:Roudennou/Traces ¥2650

(昨年の三月に 61 歳の若さで亡くなった。本作は膵臓癌との戦いと平行して制作された Yann の二枚組の新作で遺作。序文の冒頭には「このレコーディング《ブルターニュの詩歌を賞賛して》は、人として、またアーティストとしての 45 年間の旅を記念する」)と書かれている。Yann がブルターニュ一随一のトラッド・シンガーであり、欧米トラッド＆フォーク界でも屈指のシンガーであったことは、トラッド・ファンなら周知の事実。しかし本作は彼のどのアルバムをも超える素晴らしさだ。彼が 45 年の歳月を費やして、農夫や労働者や放浪者や乞食などから聞き取りした民謡等を彼は一曲一曲に魂を込め、聞き取りしたときの思い出をも込めて、シンギングしている。そのシンギングたるや闘病中とは信じられないほど声が軽やかに弾んでいて、早春のような清々しささえぼくには感じられる。彼のソロ・シンギングのみならず、ギターを中心にアコやハープの伴奏そして男女のシンガーとのデュエットなど、豊かなリズム感と絶妙のコンビネーションそして総合的にブルターニュ調に彩り感を感じさせる音楽の素晴らしさは、言葉では言い尽くせない。トラッド＆フォーク界の偉人が人生の終りに至宝の土産を遺して旅だった。三つ折りジャケを開けば、自転車に乗った笑顔の Yann。36 ページのブックレット付。2019 作。Buda)

*TRIO ERIK MARCHAND:An Tri Breur C

(発掘。副題"Chants Du Centre-Bretagne"。ブルターニュを代表するスーパー・トラッド・バンド"Gwerz"のメムバーで、ブルターニュを代表するトラッド・シンガーの Erik Marchand がブルターニュのトラッドとアラブ音楽との融合を試みたブルターニュ・トラッド・アルバムの傑作。11 曲中 5 曲が Yann-Fanch Kemener 収集の詩歌で、"Ar Gwinn"と題された曲三曲では、Erik Marchand と Yann-Fanch の白熱したヴォーカル・デュエット{歌合戦？}が拝聴できる。Erik の「硬」と Yann-Fanch の「軟」の声の妙が実に素晴らしい。Yann-Fanch にとって同志 Erik Marchand の存在はどんな

にか頼もしかったことだろうと、改めて本作を聴いて思う。
1991 作。Silex。検品してお送りします）

*PIERRE CREPILLON･LAURENT BIGOT･PATRICK MOLARD
Ar Sac'h Ler C
（P.Crepillon{ﾎﾟﾝﾊﾞﾙﾄﾞ},L.Bigot{ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟのﾋﾞﾆｳ},P.Molard {ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟのｺﾙﾇﾐｭｰｽﾞ}のブルターニュ音楽の要楽器三台による悠久感のある孤高のブルターニュ･トラッド。天空に響き渡るように清々しく気高い。1988 作。Escalibur。検品してお送りします）

*GLENMOR:Dix Ans Deja B
（ブルターニュ文化や自然環境保護に尽力し、世代を超えて多くの音楽家に影響を与えた国民的シンガーの Glenmor の 2007 年作。彼の落ち着きのあるの深い味わいのある唄の内に怒りや憧憬等の様々の情感が熱く感じられ、強さと優しさを併せ持った素晴らしい唄を朗々と聴かせる。2007 作。Coop Breizh。検品してお送りします）

*GAYANE:He Brings You Flowers a
（ブルターニュの歌姫 Gayane の 2006 年作。13 曲中 10 曲は英語で{ﾗｽﾄの仏語の歌は英語による１曲目の仏語ｳﾞｧｰｼﾞｮﾝ}、英国の夢心地な不思議女性 SSW 的。夢のような世界をきらめきのあるアコースティック･サウンド～フォーク･ロックで、Gayane らしい美意識の中で表現しきっている。2006 作。Keltia Musique。検品してお送りします）

[CD/ＳＰＡＩＮ]

*ALJIBE:El Motin De Aranjuez C
（1808 年にスペインで起こったアランフエス暴動を舞台化した劇の音楽。その音楽を担当したのがスペインの七太郎のトラッド･グループの"Aljibe"。スパニッシュ･ギター、ダルブッカ、リュート、サンフォーニャ、アコ、クラリネット、フルート、オカリナ、パーカッション等による音楽はスペインの民衆音楽をカラフルに再現し、リード･ヴォーカルの Juan Rodriguez は意気揚々としたシンギングで歴史ドラマの世界へと誘う。各メムバーの演奏力が高く、総合力でスペインの民衆音楽として音楽の質が高い。
1998 作。Several）

*TRIQUEL:Rock Celta C
（1991 年結成のスペインの本作収録時六太郎の大型ケルティック･ロック･バンドの 2008 年のアルバムでラスト･アルバム。彼らのロックはアイリッシュ･トラッドや英国のフォーク･ロック直輸入型のフォーク･ロック。全ての演唱が優雅で高潔で圧巻。未体験のフォーク･ロック･ファンはぶっ飛ぶよ。2008 作。Armando）

*FOLK ON CREST:Calle De La Botica C
（Folk On Crest はケルト音楽の隆盛に刺激を受け、結成されたスペインの若いケルト系トラッド･バンド。ガリシアのムイニエーラなどをバグパイプ、ホイッスル、ギターがケルティックなサウンドを高らかに響かせ、紅一点の Yolanda Rio がパーカッションを打ち鳴らし、抜群のシンギングで釘付けにする。恐るべきスペイン発のトラッド･アルバム。2011 作。Severalia。検品してお送りします）

[CD/ＡＳＴＵＲＩＥＳ]

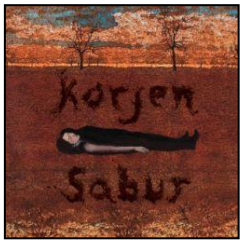
*HEVIA:Tierra De Nadie/No Man's Land　A
（ガリシアではなくアストゥリアスを代表するバグパイプ奏者Hevia の 2000 年の名盤。彼の音楽はアストゥリアスの伝統的なスタイルの上にロックっぽい斬新な音作りや土俗的香りを放つ女性ヴォーカルの起用等、極めて独自色を発散している。1992 年にブルターニュの音楽祭でバグパイプ部門最優秀賞を受賞。2000 作。EMI-Odeon。検品してお送りします）

*BRENGA ASTUR:Cancios Del Gochu Xabaz　B
（魅惑の女性シンガー Marta Elola がヴォーカルのアストゥリアスの大型ケルティック・ロック・バンド"Brenga Astur"のおそらく唯一のアルバム。1999 作。Fonofolk）

[CD/ＩＴＡＬＹ]

*TERESA DE SIO:Africana（中古の新品。1985 作。Philips）　C

[CD/BOSNIA,POLAND,SLOVAKIA]



（Korjen）

*KORJEN:Sabur　C
（4/17 頃入荷予定。Spotify で視聴。ボスニア、ポーランド、スロバキアの三カ国の女性ヴォーカルを擁し、チェコのミュージシャンとポーランドのマルチ楽器奏者の Lukasz Sabat 等から成るバンド"Korjen"の新作で二枚目。伝統音楽に向かう姿勢が先進的で斬新。女性シンギングは民族音楽志向で、地域色を強く保持したシンギングであるのと同時に、彩る音楽は民族音楽、ロック、ジャズの幅で幅広く、東欧発ワールド・ミュージックとしてすこぶる魅力的。2019 作。Indies Scope）

[CD/ＣＺＥＣＨ]



（Helena Vedralova&Muziga）

*HELENA VEDRALOVA & MUZIGA:Zezali　C
（4/17 頃入荷予定。Spotify で視聴したが、チェコとチェコ東部のモラヴィアの伝統音楽にインスパイヤーされて結成したという女性シンガーの Helena Vedralova のシンギングをフィーチャーした彼らの音楽は、東欧風ユーロ・トラッドとして、凄く魅力的。伝統的民衆音楽に思いを馳せ、ジャズの要素を上手く取り入れて、

独自のチェコ･トラッドを見事に実らせている。2019 作。Indies Scope)

[CD/ＢＵＬＧＡＲＩＡ]

*BELONOGA:Through The Eyes Of The Earth B
(ブルガリア国立放送合唱団"Mystery of the Bulgarian Voices"出身の女性シンガーの Gergana Dimitrova-Belonoga のソロ。2009 年に始まった"Belonoga Ethno Project"の第二弾。ブルガリア屈指のカヴァル奏者の Kostadin Genchev や Philip Koutev Ensemble のガドゥルカ奏者の Peter Milanov 他ブルガリア屈指の民族楽器の演奏家等にジャズ･トランペッターの Rossen Zahariev-Roko を加えたバンドの音楽は､かつて聴いたことのないようなブルガリアの民族音楽の土俗的なサウンドを果敢に体現していて圧巻だし､Belonoga のブルガリアン･ヴォイス的に磨き抜かれたヴォーカルはマジカルで絶品。2019 作。CPL-Music)

[CD/ＨＵＮＧＡＲＹ]

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe B
(2012 年の衝撃のデビュー作から７年。衝撃は本作においても不変。野心的なハンガリアン･バンドが少なくなった今日､北欧の魔性的トラッドを彷彿させる Meszecsinka のフォーク･ロックの深淵な野性味と無国籍な異国情緒は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。昔､Kolinda を聴いたときもその未踏の境地に突き進む先進的なフォーク･ロックに衝撃を受けたが､Meszecsinka のフォーク･ロックにも同種の感動を覚える。今までに体験したことのない､孤高のハンガリー発フォーク･ロックだ。2019 作。CPL-Music)

*MESZECSINKA:Meszecsinka B
(Makam&Kolinda に初期 Kolinda 時代のエネルギー＋αを注入したかのような土着的エネルギーに満ちたフォーク･ロック､というのが前半。6 曲目の"Kuku"という民謡風の唄から傾向が変わる。7 曲目は前半と同じ傾向だが､8 曲目以降最後 11 曲目まで､今度は音楽がシンプル＆スローになり､Oláh Annamaria の唄が魔性を帯びる。メリスマの利いた悠久のヴォーカルが素晴らしい。圧巻。2012 作。NarRator)

*MARTA SEBESTYEN:Szerelmeslemez/Loverecord(1996 作。Gong)C

*MUZSIKAS･SEBESTYEN MARTA:Hazafele C
(英題"Homeard Bound"。1996 作。Gong)

*ORFEO:Zeneszcsoport B
(Kolinda 結成前の Kolinda のメムバー達の貴重な音源集。Kolinda の諸作はデビュー時からロック･ファンにも衝撃を走らせた完成品以上の完成品だったが､本作では､Kolinda 前夜的完成音楽､ハンガリー伝統音楽等が聴ける。試行錯誤時代の Kolinda と Kolinda の姉妹グループの Vizonto の魂震わす演唱だ。全 22 曲。P62 のブックレット付。2011 作。KOKE-001)

*MAKAM:A Part(1998 作。Fono) B

*MAKAM:Anix(2003 作。FolkEuropa) B

*MAKAM:Almanach(2004 作。FolkEuropa) B

*MAKAM:Zarandokenek(2008 作。Z Paravan BT) B

*MAKAM & KOLINDA "Bognar Szilvia,Szirtes Edina Mokus" B

(2011 作。Z Paravan BT)
※以上、Makam(& Kolinda)は検品してお送りします。
*BALAZS ELEMER GROUP:Hungarian Folksong B
(Szaloki Agnes と Palya Bea の歌姫二人がメムバーのトラッドとジャズとを融合した野心的かつ革新的トラッド・アルバム。2005 作。X.Produkcio。検品してお送りします)
*LAKATOS ROBERT ES A REV:Hajnalodik B
(ハンガリーの著名なフィドル奏者の L.Robert と彼のグループによるクラシックと伝統音楽を融合を試みた意欲作。ヴォーカルは L.Robert の奥様の Korpas Eva。2005 作。FolkEuropa。検品してお送りします)
*KORPAS EVA:Szerelem,Szerelem B
(英題"Love,Love"。Primas Parade,Tukros Band,Lakatos Robert などのアルバムで魅惑的なヴォーカルを披露している女性シンガーの Eva のソロ。本作は Eva のエキゾティックで不思議な安らぎ感があるジャズ風味のハンガリアン・トラッド。Muzsikas 系でも Makam 系でもな新感覚の魅惑のハンガリアン・トラッド。全 18 曲。2010 作。FolkEuropa。検品してお送りします))
*LIVING VILLAGE MUSIC 11 C
(ハンガリーの"Living Village Music"シリーズの第 11 集。2005 作。FMVMCD011)
*CIGANYOK "A Karpat-Medencenen C
("Gypsy-In The Carpathian Basin"。2004 作。Etnofon)
*KALLOS ARCHIVUM:Uran,Irgalmazz Nekunk(2005 作。Fono) C
*TURKROS ZENEKAR:Azatmari Nepzene Az 1900-As Evekbol A
(副題"Hungarian Village Music From The 20th Century。表紙に少しシミが見られます。2000 作。Folk Europe)
*GA'ZSA:Transylvanian Folk Music A
(ブックレットに自然にできたシミが見られます。1998 年。ABT)
*VIKTORIA HERENCSAR:Geza Allaga - Hungarian Cymbalum Concert(92 作。Quintana) C
*GAZSA:From Budapest To Kommando C
("Gazsa"のﾆｯｸﾈｰﾑで知られる 1980 年代のﾄﾗﾝｼﾙｳﾞｧﾆｱのﾌｫｰｸ・ﾘｳﾞｧｲｳﾞｧﾙの著名ﾌｨﾄﾞﾗｰの Istvan Papp Gazsa 率いる Gazsa の多彩なﾌｨﾄﾞﾙが舞うﾊｲ・ﾚﾍﾞﾙなﾊﾝｶﾞﾘｰ音楽。英語解説付。2003 作。FolkEuropa)
*MAGYAR TEKEROZENEKAR:Kertunk Alatt C
(ハンガリーのハーディーガーディーをフィーチャーした編集盤。1995 作。Fono)

[CD/KLEZMER,GYPSY,BALKAN 他]



(Romarabeat)
*ROMARABEAT:Romarabeat B
(スペイン～北アフリカ～トルコ～バルカンを繋ぐロマ{ジプシ

一}の音楽。そうした音楽に挑む楽士は、Primiano Di Biase{ﾋﾟｱﾉ},Ziad Trabelsi{ｳﾞｫｰｶﾙ、ｳｰﾄﾞ},Paolo Rocca{ｸﾗﾘﾈｯﾄ},Florian Preda{ﾂｨﾝﾊﾞﾛﾝ},Ionel Nicolae{ｱｺ},Mihaly Huszar{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ},Simone Talone{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ},Hersi Matmuja{ｳﾞｫｰｶﾙ},Houcine Ataa{ｳﾞｫｰｶﾙ}達。彼らが挑むロマ音楽は、アラブ＝汎地中海音楽だが、アラブ音楽やラテン音楽やスペインのジプシー音楽やトルコのジプシー音楽等々、ワールドミュージック･スタンスで今日のロマ音楽をエネルギッシュに創作していて圧巻。男女のヴォーカルはアラブ色が濃い。2020 作。Finisterre)

*LENA ROTHSTEIN:Cantos Judeo-Espanoles B
(国際アンサンブル"Spharadim"の創設者でウィーンのユダヤ人シンガーの Lena Rothstein のセファルディ{スファラディ}･アルバム。心地よく中世スペインに誘われる気分。1991 作。Extraplatte)

*THE BEST OF ISRAEL B
(副題"Tous Les Succes Des Plus Grands Artistes"。発売年不明。Atoll。検品してお送りします)

*RAOUL JOURNO
:Tresors De La Chanson Judeo-Arabe(発売年不明。Melodie)C

*MUSIQUE JUDEO-ARABE VOL.2 "Tunisie" C
(1993 年。Club Du Disque Arabe)

*ALEXANDER FEDORIOUK:The Art Of The Cimbalom A
(2003 作。Traditional Crossroads。検品してお送りします)

[CD/ＡＬＧＥＲＩＡ]

*CHEIKH ELHASNAOUI:Les Grands Maitre De La Chanson Kabyle Vol.2 C
(アルジェリアの都市型民衆歌謡のシャアビの大物歌手 Cheikh Elhasnaoui の 1991 年のアルバム。Club Du Disque Arabe。検品してお送りします。ブックレット劣化の可能性があります)

*ELHADJ MRIZEK:La Chanson Populaire Algerienne Le Chaabi Vol.3 C
(アルジェリアの都市型民衆歌謡のシャアビの大物歌手 Elhadj Mrizek の 1991 年のアルバム。Club Du Disque Arabe。検品してお送りします。ブックレット劣化の可能性があります)

[CD/ＳＥＮＥＧＡＬ]

*MALANG CISSOKHO:Lotus A
(父はセネガルで"King Of Kora"として著名な演奏家で、母は著名なシンガーというコラの奏者でシンガーの Malang Cissokho の 1990 年のアルバム。彼の音楽は西アフリカのグリーオの音楽をベースにした伝統的な音楽と自作の音楽。初めて西アフリカのコラの音楽を聴いたときの感動が甦る全てがグリーオ音楽スタイルの涼やかな音楽と唄。大樹の下で昼寝気分。ゲスト:Hannu Saha{ｶﾝﾃﾚ}。1990 作。An EiNo Pruduction)

---

*ブルターニュのトラッド･シンガーの Yann-Fanch Kemener が亡くなったことを知ったのは、今年の一月に Yann-Fanch の熱心なファンで、彼と親交のあった白石和良さんから頂いたメールででした。ネットで調べて見ると、遺作が発売されていることを知り、闘病と並行して

制作されたという彼の人生最後に遺した新作を早速仕入れて聴いてみました。ブルターニュの庶民の詩歌の収集に情熱を傾け、自身の声で詩歌に命を吹き込んできたYann-Fanchの最後の仕事に相応しい素晴らしい内容に深く感銘を覚えました。並大抵の精神力ではこれほどのものは作れないですよね。ご冥福をお祈りします。
*カタログのJohn Prineの"The BBC Sessions"でも書きましたが、4月7日、ジョン・プラインが新型コロナウイルスによる合併症のため亡くなりました。1971年のデビュー・アルバムに出逢ってからの思い出は数知れず。御冥福をお祈りします。
*実はタムボリンが湯布院に越してきて。この春で25周年。広々した草原にログハウスを建て（隣にミニ・ログハウスを建てた時には多くのタムボリン愛用者が手伝いに来てくれました）、好きなように仕事をし、ツアーを企画し、旅をし、遊んだ25年間でした。特に初めの15年間は「もう音楽の仕事でやり残したことはない」と思ったほど、思い残すことのない15年間でした。そしてかれこれ10年は、タムボリンと並行して、堀田はりい(Harry Hotta)の名で別の趣味の専門分野で執筆活動も行えています。これからも音楽にパワーをもらいながら、好きなタムボリンの仕事を続けていけたらと思っています。
*その25周年の年に新型ウイルスの世界的な感染拡大の影響で、3月下旬に最終段階に入っていた通販カタログ作りも10日以上中断。丁度四年前の熊本地震といい、世の中いつ何が起きるかわかりませんね。でもそのお陰で、桜の季節にしばしのんびり過ごすことができました。思えば、湯布院に越してきた頃は、仕事は今より数倍忙しかったですが、自由な時間もたっぷりあったような気がします。仕事がネット中心になったことも要因かと。今、郵便で注文される方が一定の数いらっしゃいます。25年以上前からの方ばかり。いつも手書きの注文を文通相手からの手紙のような気持ちで、郵便屋さんから受け取っています。
*前述のYann-Fanch Kemenerもそうですが、今回内容の濃いＣＤが多く、また熟聴する時間もあって、やや長めのコメントが多くなりました。ご容赦下さい。
*今回ひと月前に英国を出たFairport Conventionの新作"Shuffle And Go"も販売したかったのですが、どこでどうなっているのか、まだ届きません。通常の国際郵便で発送されていて、追跡不可能なため、今回の販売は諦めました。
*さて、今年もこの春に定年退職された方が多いかと思います。皆さま、しばし体を休められてから、楽しいことを見つけて、新しい人生を健やかにお過し下さい。(船津)



©David Suff

一昨日、英国の Fledg’ling Records のオーナーで四年前まで Topic Records のジェネラル・マネージャーをされていた David Suff さんから自作の四枚の鳥の絵がメールで送られてきました。その内の一枚をご紹介します。ご本人のこの絵の解説には「新コロナの対策で強いられている社会的距離なんてことなど関係ないってご様子の二羽の友達」と書かれていました。

メールは「Virtual hugs from the other side of the world. Keep safe」と結ばれていました。